



DataScientist Society

データサイエンティストの就労意識

2015 → 2022 一般(個人)会員アンケートより

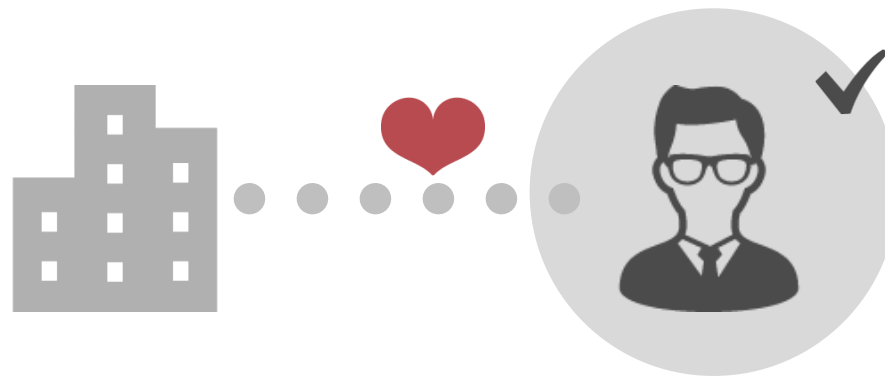
2023年 3月 20日

データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

調査目的と概要

データサイエンティストの人材育成やスキルアップ、
組織内外の需要（企業）と供給（データサイエンティスト）の
マッチングに関する現状を明らかにするため
データ分析に携わる個人が抱える課題を把握・考察する

≡データサイエンティスト協会 一般（個人） 会員



アンケートURLを一般(個人)会員にメールで送信し、任意回答いただく

● 2015年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員
(実務者層およびマネジメント層)
- 調査日 : 2015年10月4日 ~ 10月28日
- 回収数 : 245
(うち85は実務・マネジメント以外)

● 2016年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員
(データ分析関与者)
- 調査日 : 2016年9月23日 ~ 10月3日
- 回収数 : 145 (うち54はデータ分析非関与)

● 2018年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2018年9月4日 ~ 9月28日
- 回収数 : 391

● 2019年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2019年11月26日 ~ 12月22日
- 回収数 : 414

● 2020年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2020年10月25日 ~ 11月30日
- 回収数 : 630

● 2021年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2021年11月9日 ~ 11月29日
- 回収数 : 581

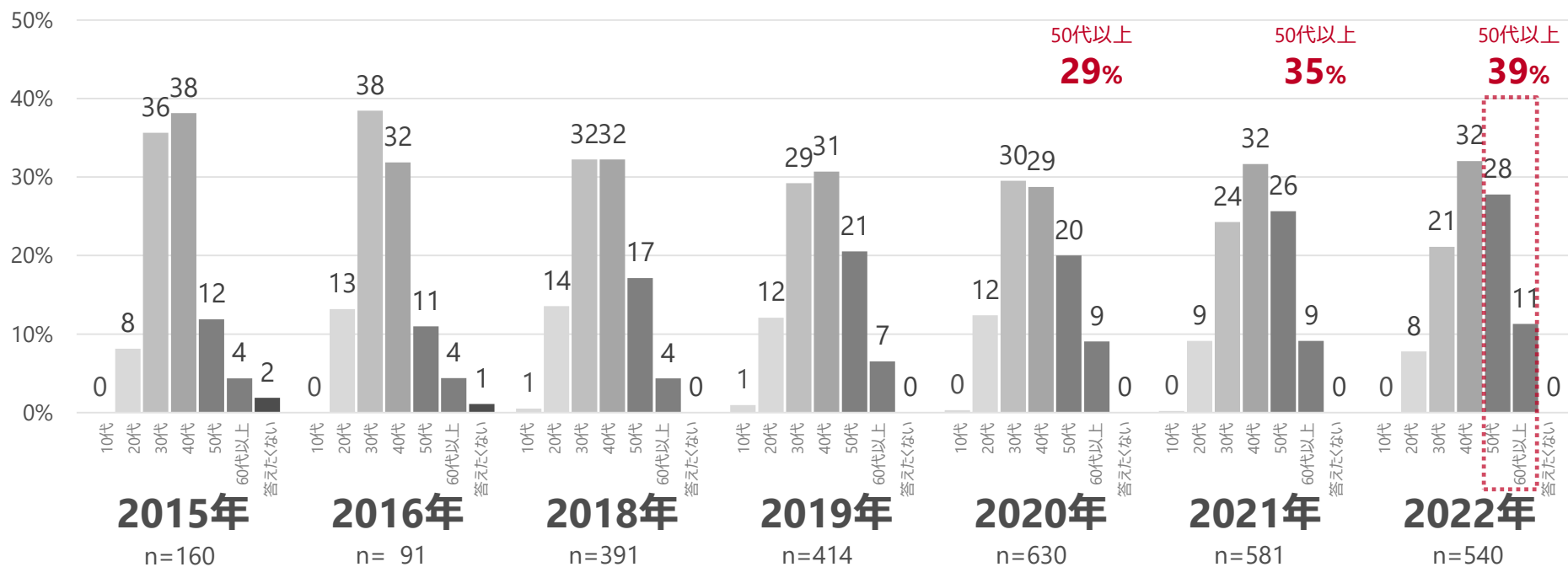
● 2022年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2022年11月9日 ~ 11月29日
- 回収数 : 540

一般会員調査の結果 ：属性と業務内容

30～50代が中心層

50代以上の比率が増加しており4割近くに達する

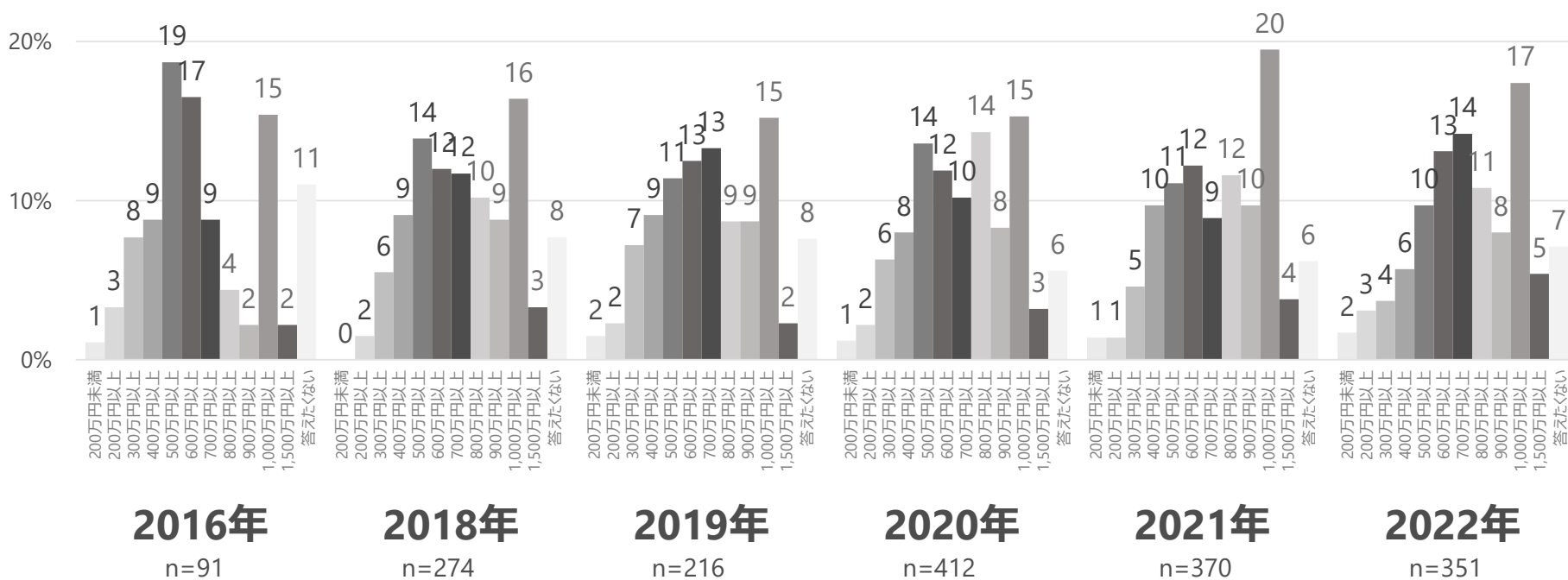


男女比は 9 : 1



平均年収は839万円

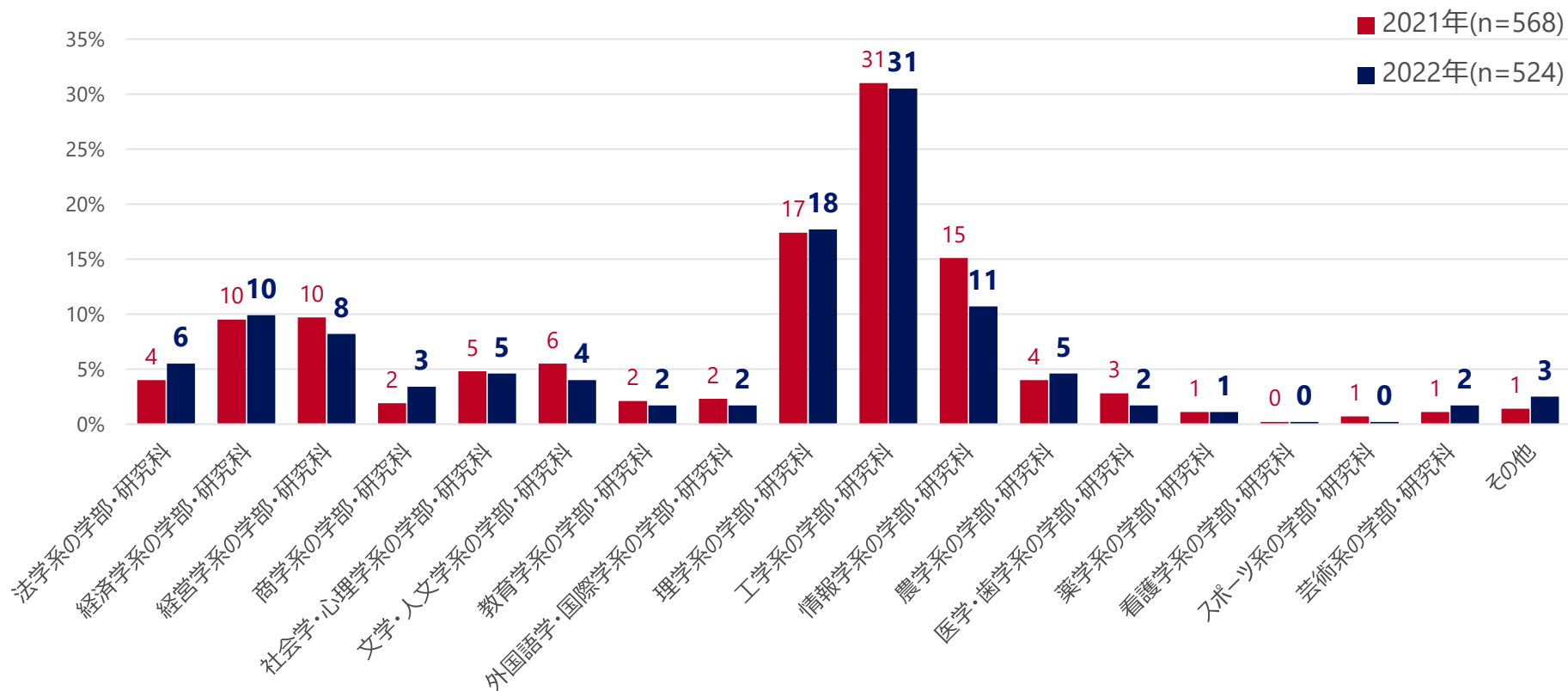
平均： 726万円 809万円 769万円 791万円 833万円 839万円



Q あなたが所属していた（いる）学部・研究科は以下のどれにあたりますか。
（MA／最終学歴が高校の方以外が回答）

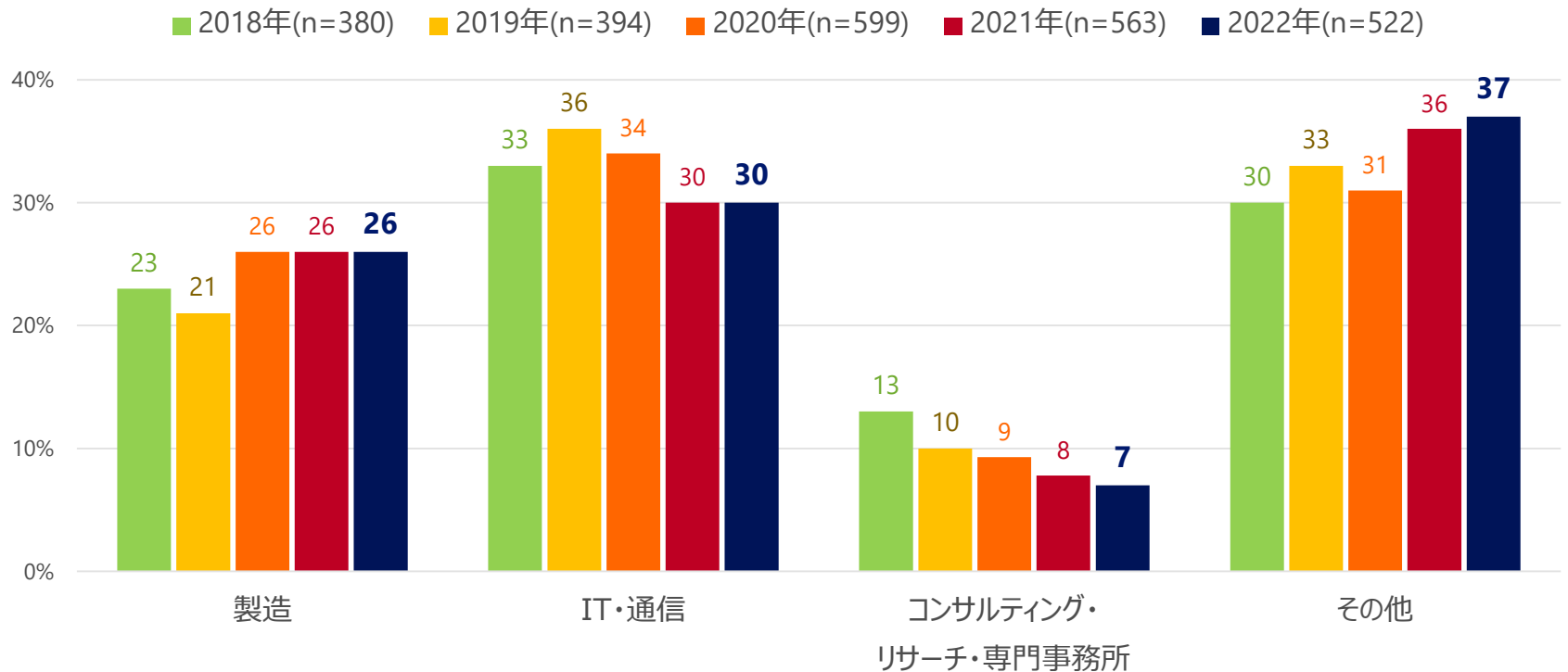
2021年新規追加

工学系の学部・研究科出身者が多数



Q. あなたの所属する企業・組織の業種を教えてください ※複数所属する場合は主たるものを選択してください
(勤め人のみ回答/SA)

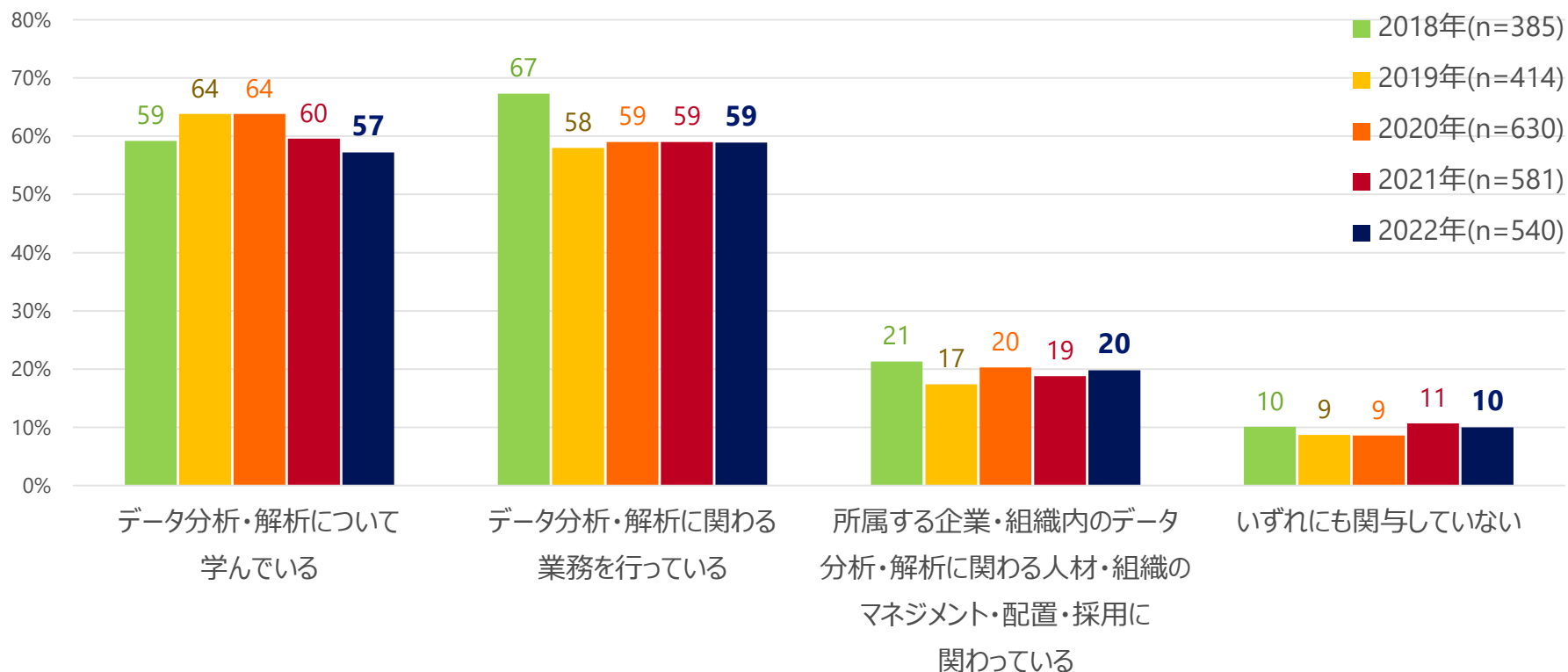
IT・通信が最多だが減少傾向がみられ その他が増加 各業種間の差が縮まってきている



※26の選択肢からまとめて集計

Q あなたは、データ分析・解析についてどのように関わっていますか。(MA)

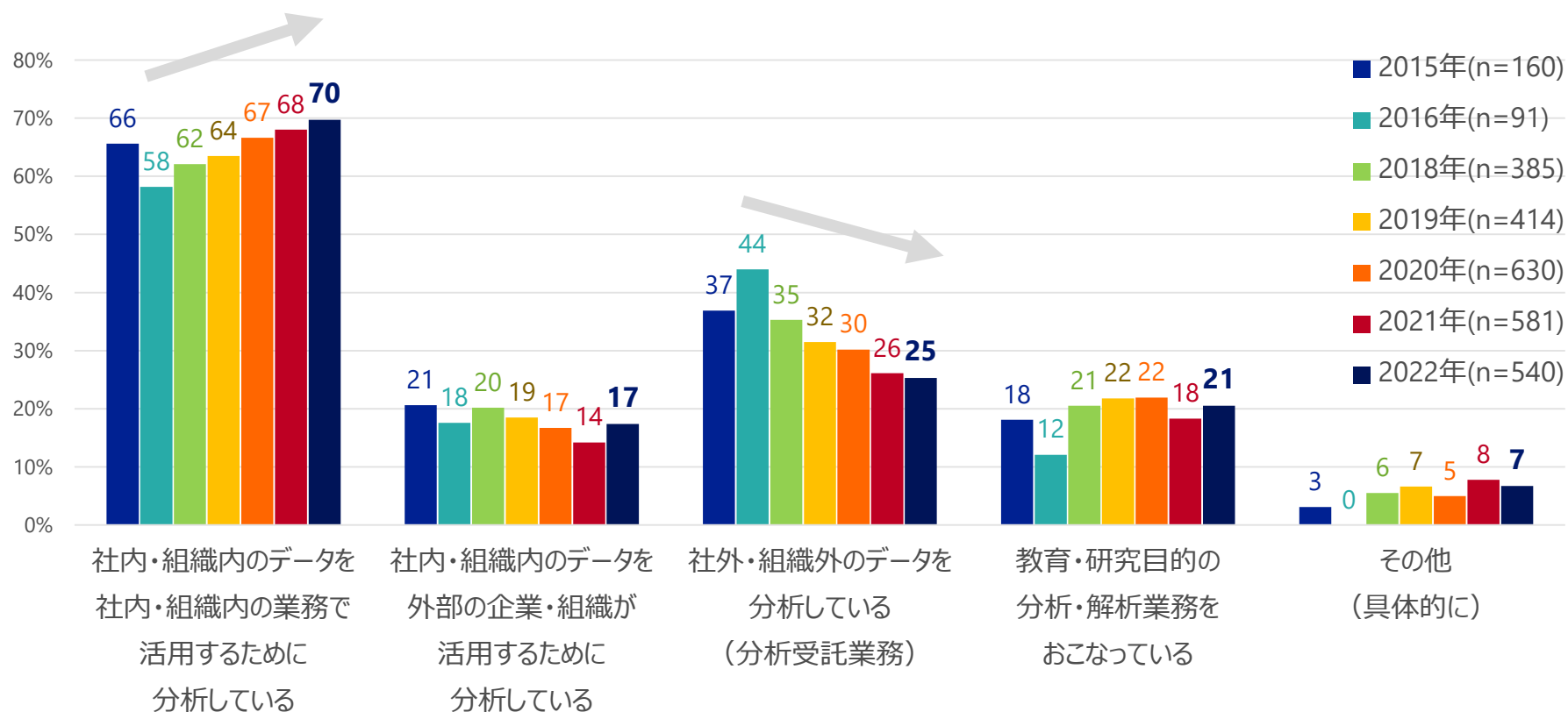
2021年調査時より データ分析について学んでいる割合が微減



データ分析・解析の目的

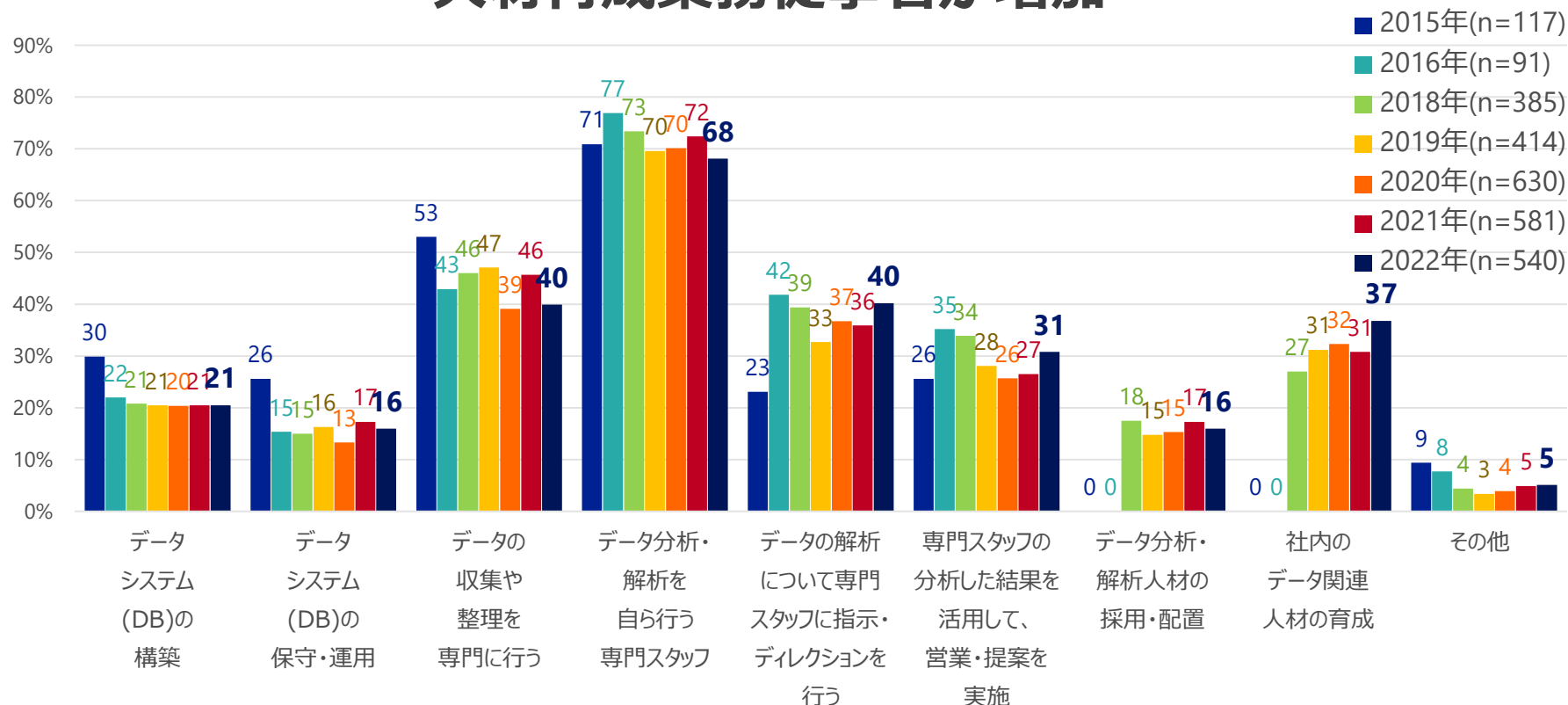
Q. あなたが所属している企業・組織ではどのような目的でデータ分析・解析をおこなっていますか。(MA)

社内データの分析・活用が進んでいる



Q. あなたがおこなっているデータ分析・解析に関わる業務としてあてはまるものを選んでください。(MA)

データ分析専門スタッフとしての業務が多数 人材育成業務従事者が増加

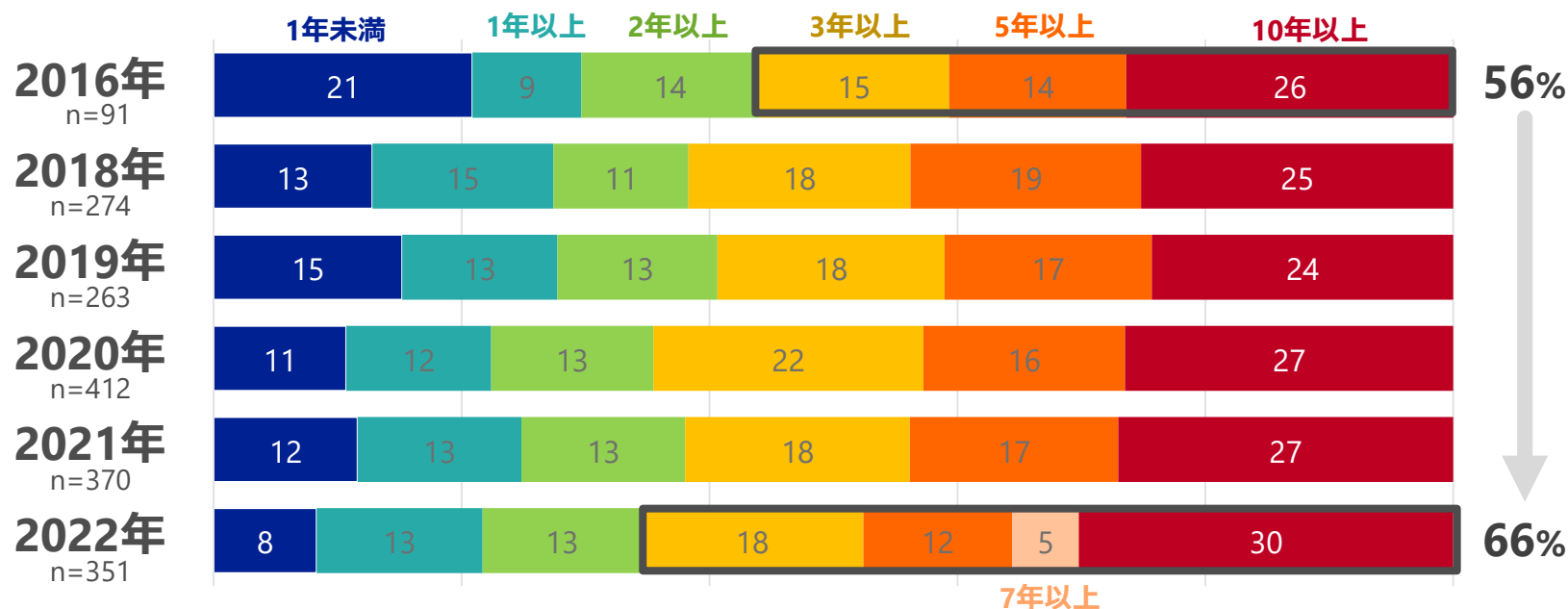


分析業務従事期間

- Q. あなたはデータ分析・解析にどのくらいの期間従事されていますか。（データ分析業務従事者のみ回答／SA）
※期間は現在所属されている企業・組織を問わず自身の経歴全体でお答えください。

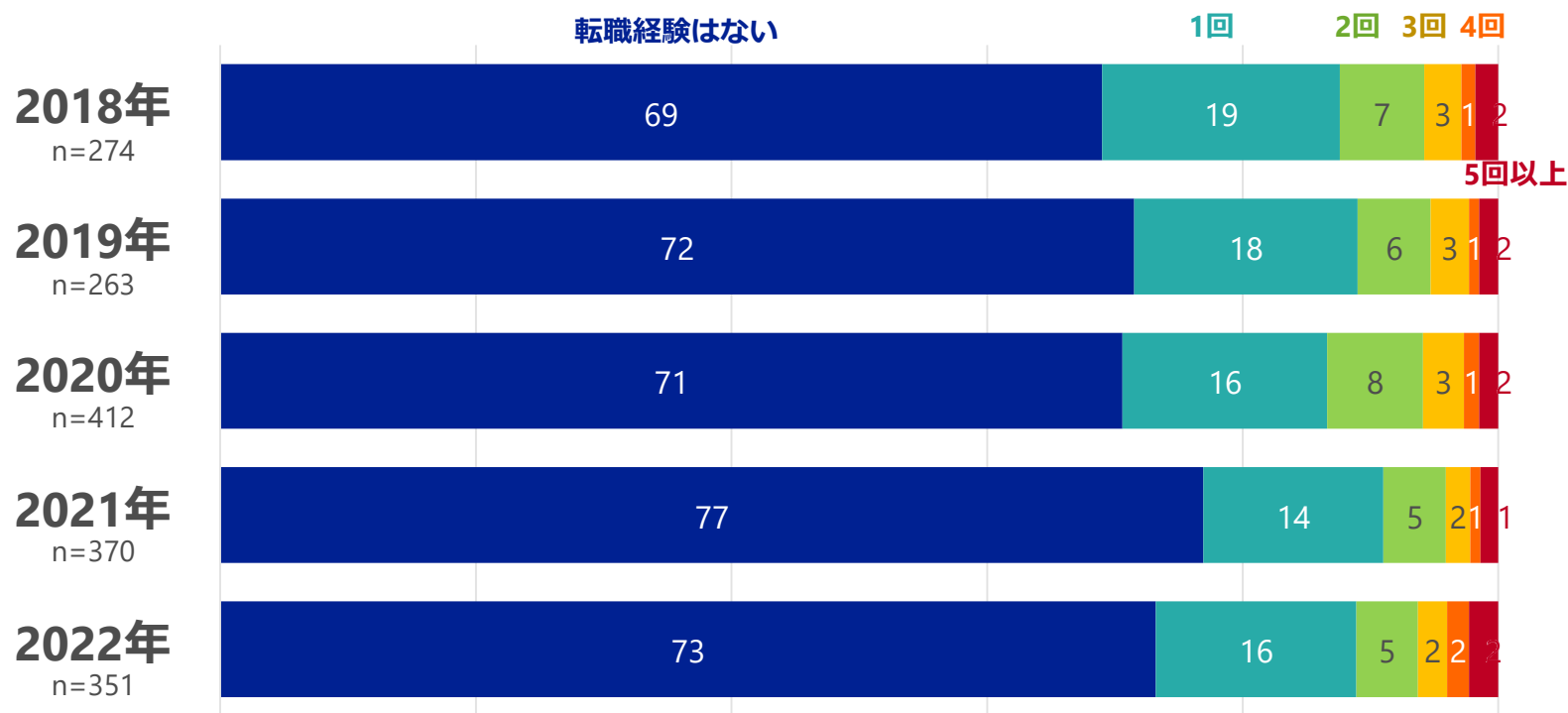
2022年より
選択肢区分変更

分析業務に3年以上従事している人が 66%



Q. あなたは今までにデータ分析・解析業務において転職されたことはありますか。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

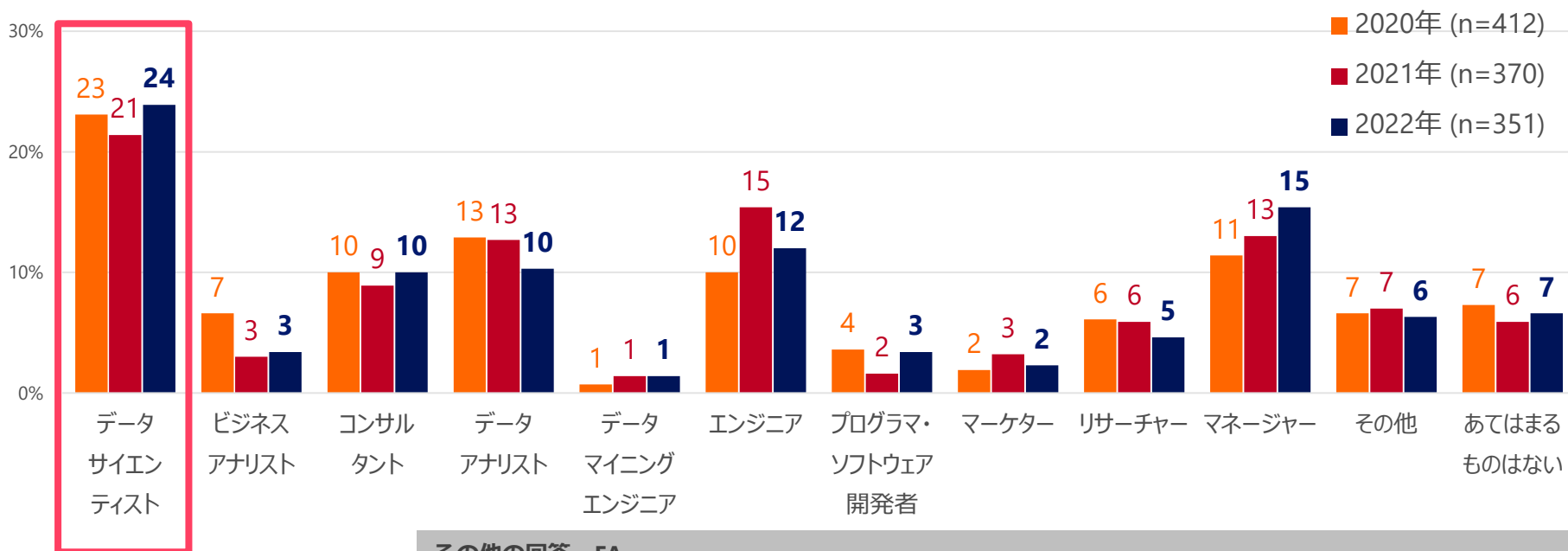
転職経験のない人が約7割



業務を表現する職名

Q あなたの現在の業務を表現する職名として、当てはまると思うものを以下から選んでください。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

職名としては「データサイエンティスト」が最多 マネージャーが増加傾向



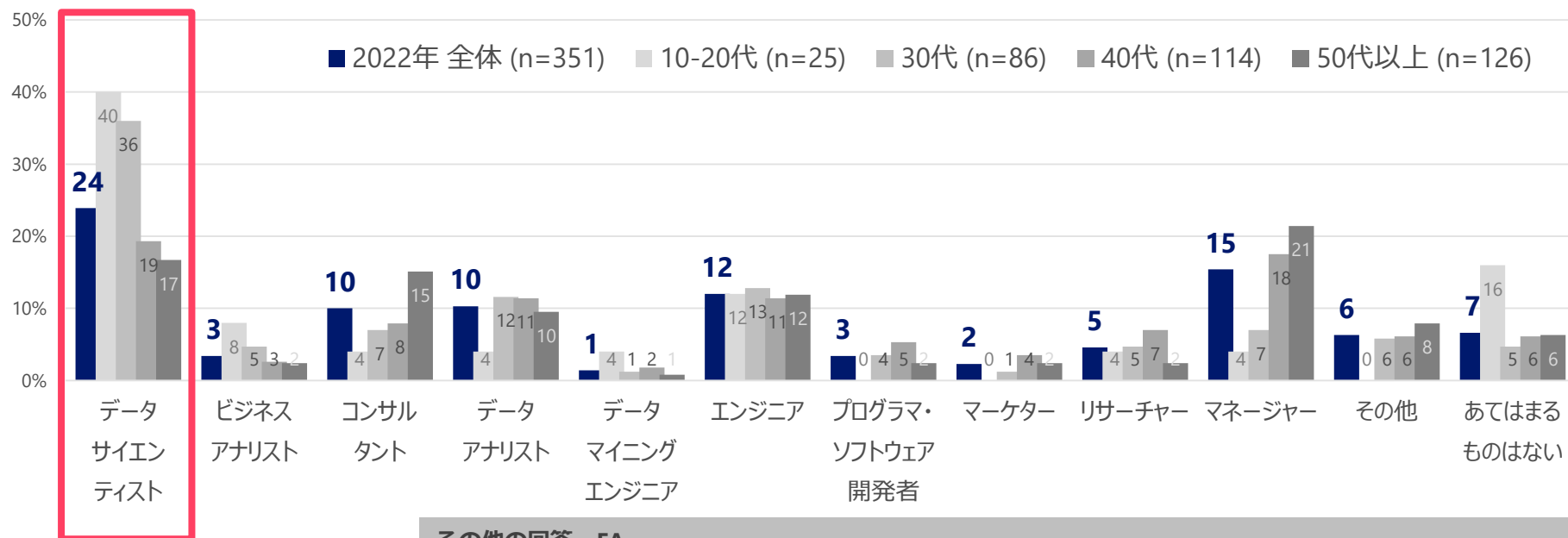
その他の回答 FA

AIエンジニア CIO(最高運用責任者) アーキテクト シニアコーディネーター データストラテジスト データトランスレーター
プロジェクトマネージャー リサーチャーのアシスタント 営業 学部長・研究科長 企画職 技術の橋渡し役 教員 教授(2)
経営者 研究開発 研究者・教育者 准教授 大学教員(2) 予防保全担当

業務を表現する職名（2022年・年代別）

Q. あなたの現在の業務を表現する職名として、当てはまると思うものを以下から選んでください。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

職名としては「データサイエンティスト」が最多 「データサイエンティスト」は若年層に多い

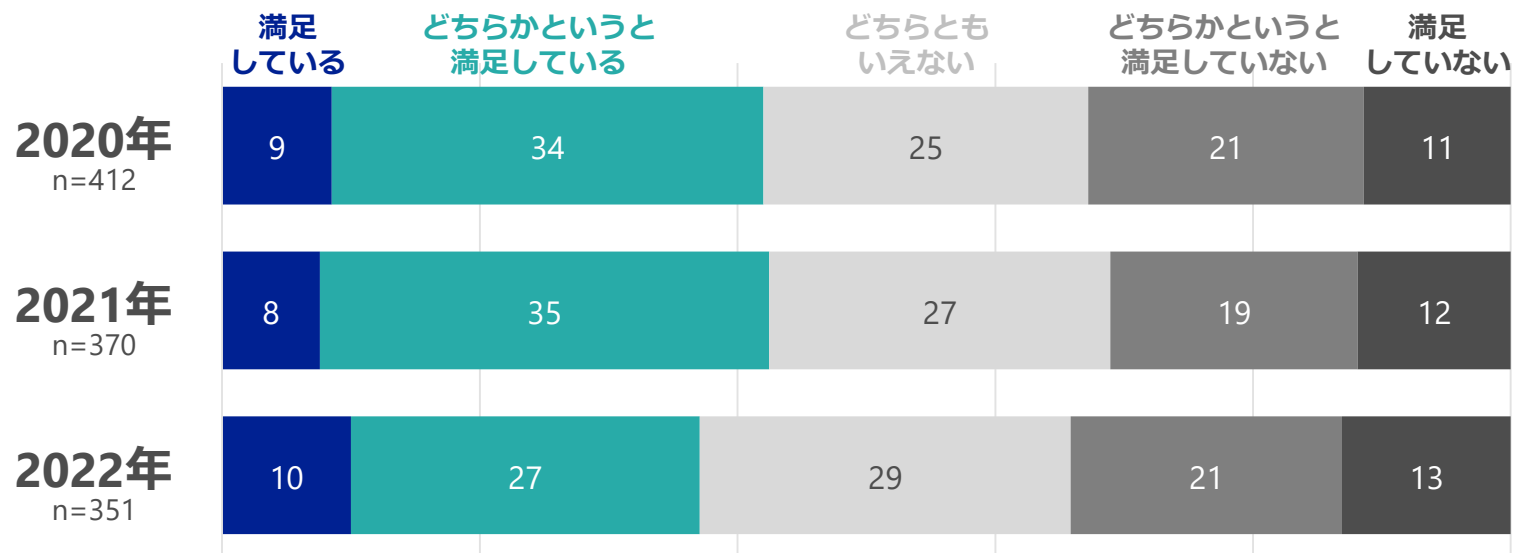


その他の回答 FA

AIエンジニア CIO(最高運用責任者) アーキテクト シニアコーディネーター データストラテジスト データトランスレーター
プロジェクトマネージャー リサーチャーのアシスタント 営業 学部長・研究科長 企画職 技術の橋渡し役 教員 教授(2)
経営者 研究開発 研究者・教育者 准教授 大学教員(2) 予防保全担当

Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

業務に満足を示しているのは 37%



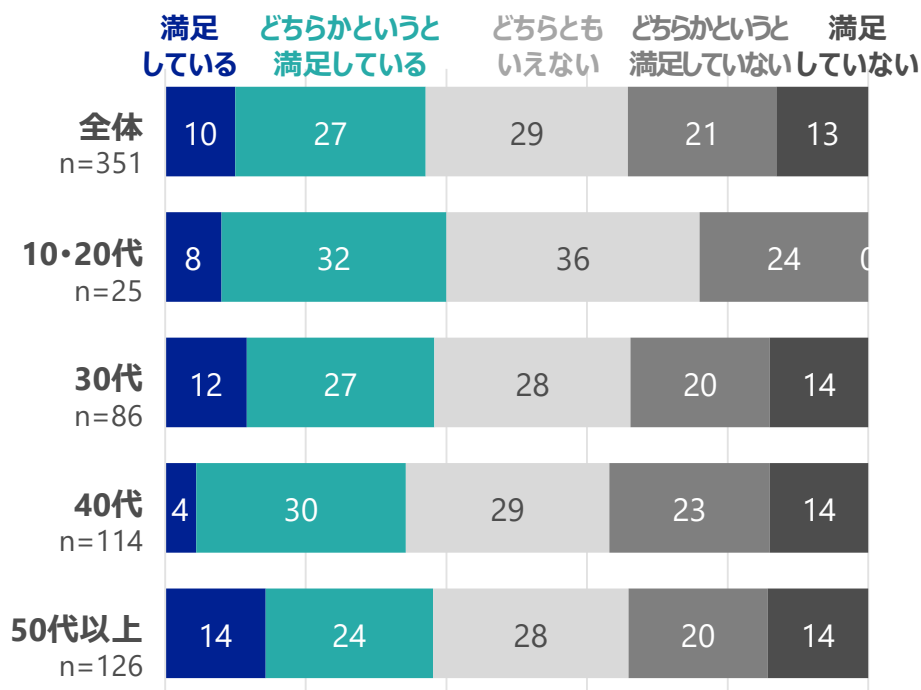
業務満足度（年代別）

Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
（データ分析業務従事者のみ回答／SA）

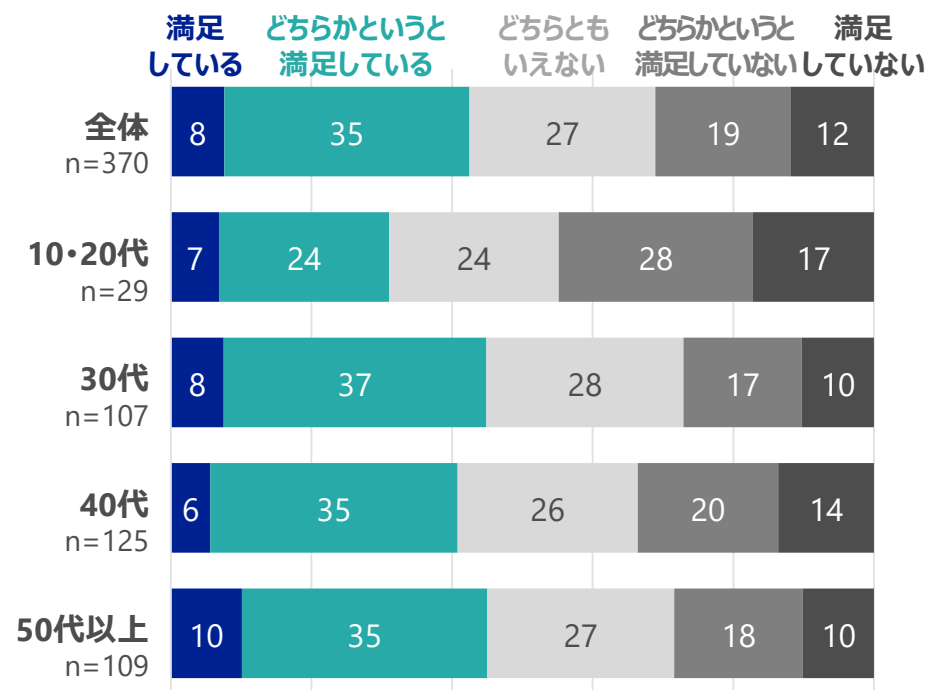
30代未満で 業務満足度*が 約40%

*満足している + どちらかという満足している の計

2022年

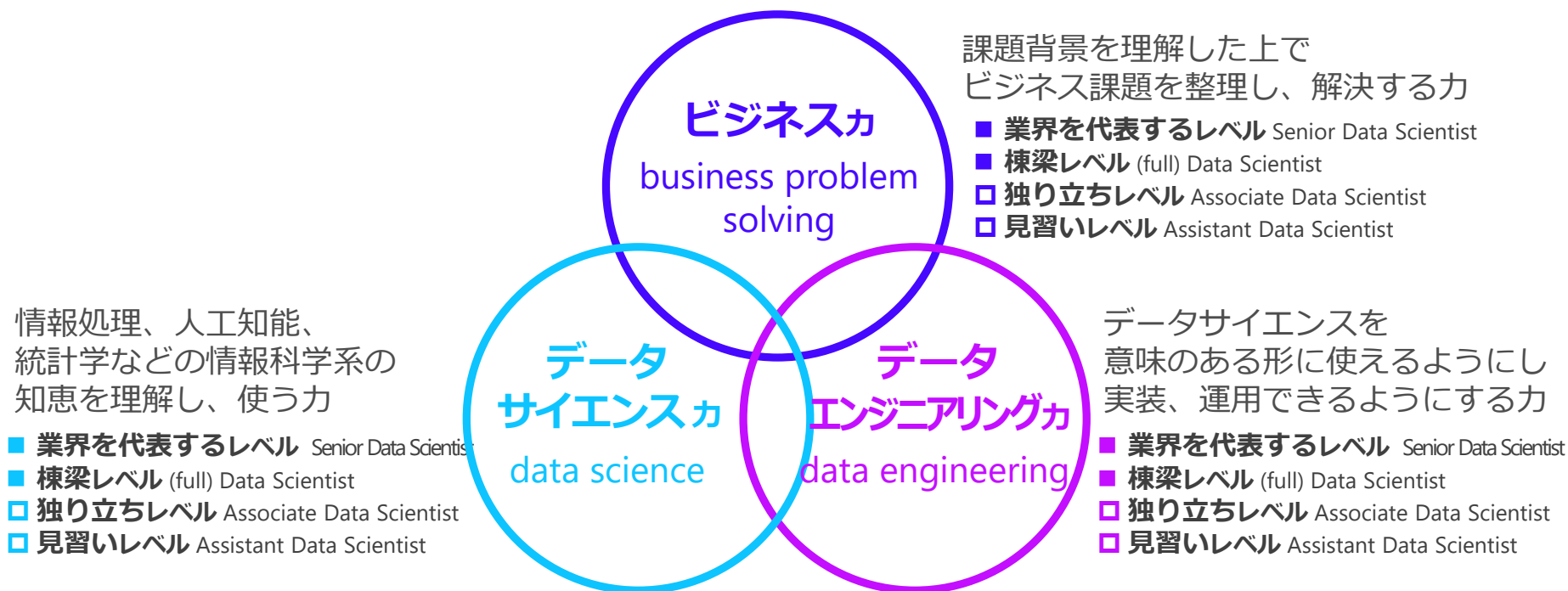


2021年



一般会員調査の結果 ：スキルレベル

3つのスキルセットについて 一人で現実的に全て持てる多くの場合の目標点は 棟梁レベル

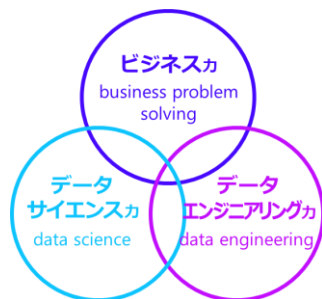


スキルセットとスキルレベルの認知・活用状況

- Q あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの3つのスキルセットについてご存知でしたか。(SA)
- Q あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの4つのスキルレベルについてご存知でしたか。(SA)

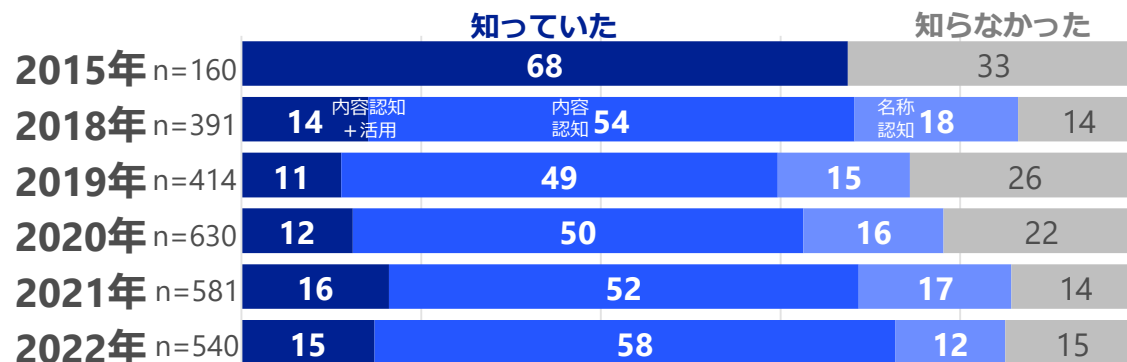
3つのスキルセットおよび4段階のレベルに関する認知は高まってきており、活用も進み始めている

スキルセット認知



スキルレベル認知

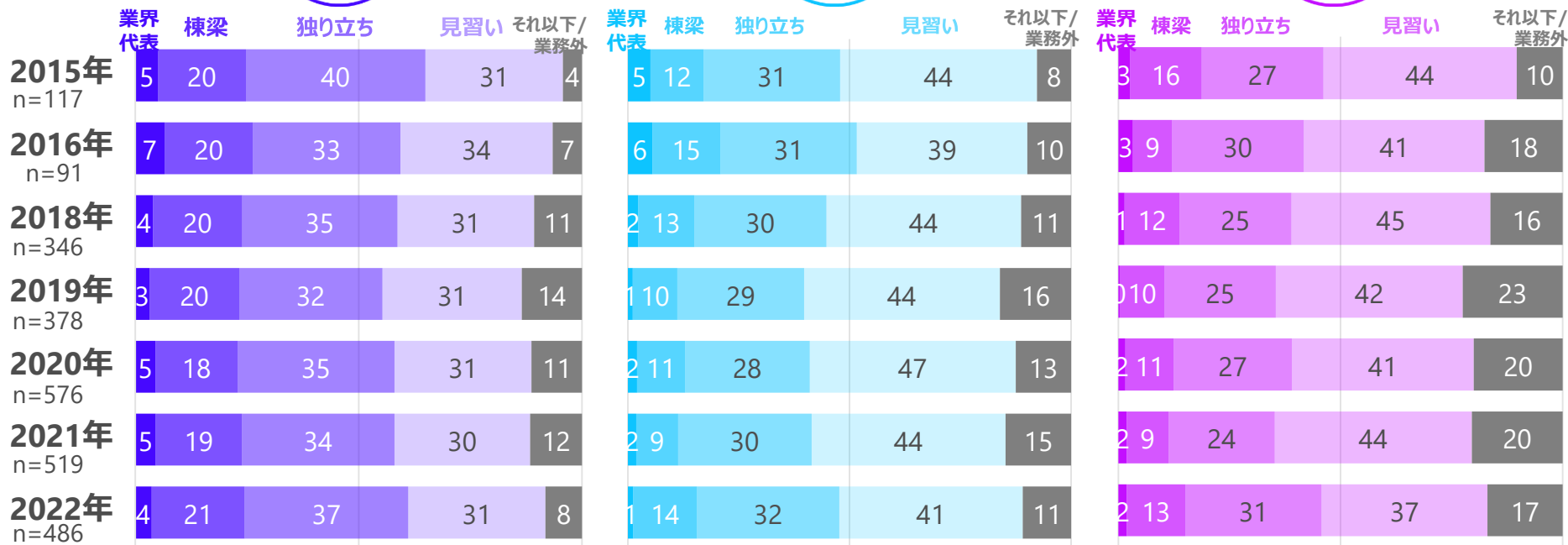
- 業界を代表するレベル Senior Data Scientist
- 棟梁レベル (full) Data Scientist
- 独り立ちレベル Associate Data Scientist
- 見習いレベル Assistant Data Scientist



現在のスキルレベル

Q. 現在のご自身のデータ分析・解析業務におけるスキルは、データサイエンティスト協会の定義ではどのレベルに当てはまると思われますか。（データ分析関与者／SA）

ビジネスカは棟梁レベル以上に達する人が 2割を超える

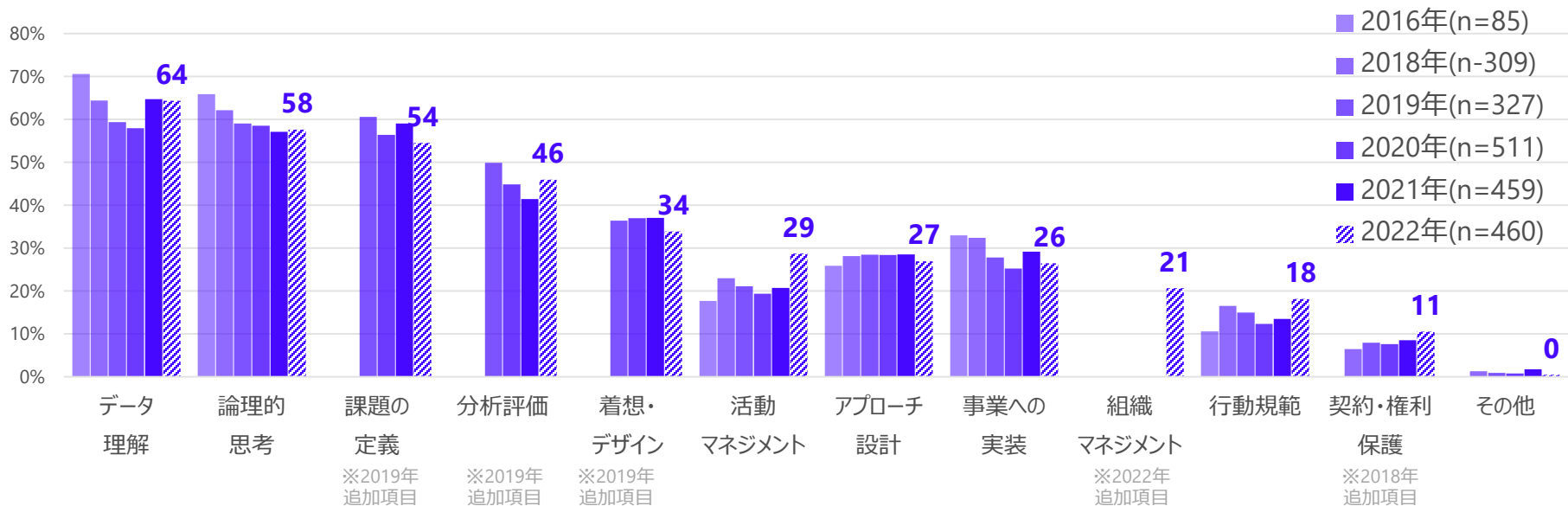


特に得意なスキルカテゴリ

Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA／スキル見習い以上）

ビジネスカ
business problem
solving

「データ理解」を得意とする割合が高い 「活動マネジメント」が8ポイント増

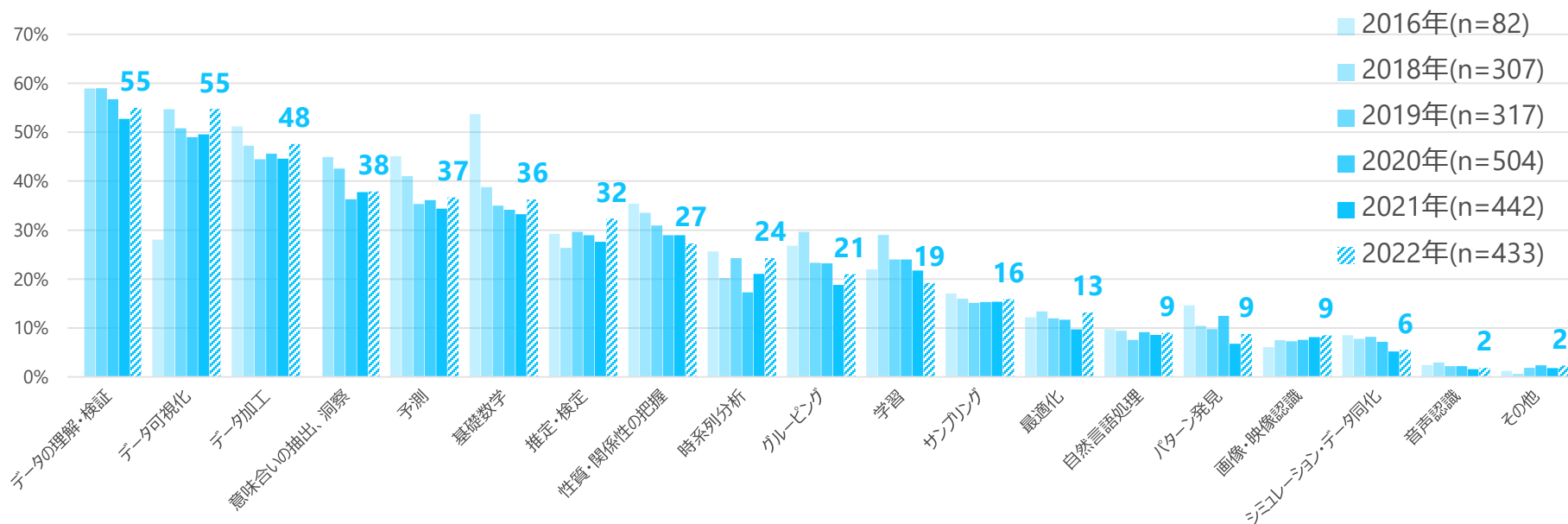


特に得意なスキルカテゴリ

Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA／スキル見習い以上）



「データの理解・検証」は5割が得意 データ可視化・加工も半数近くが得意と回答

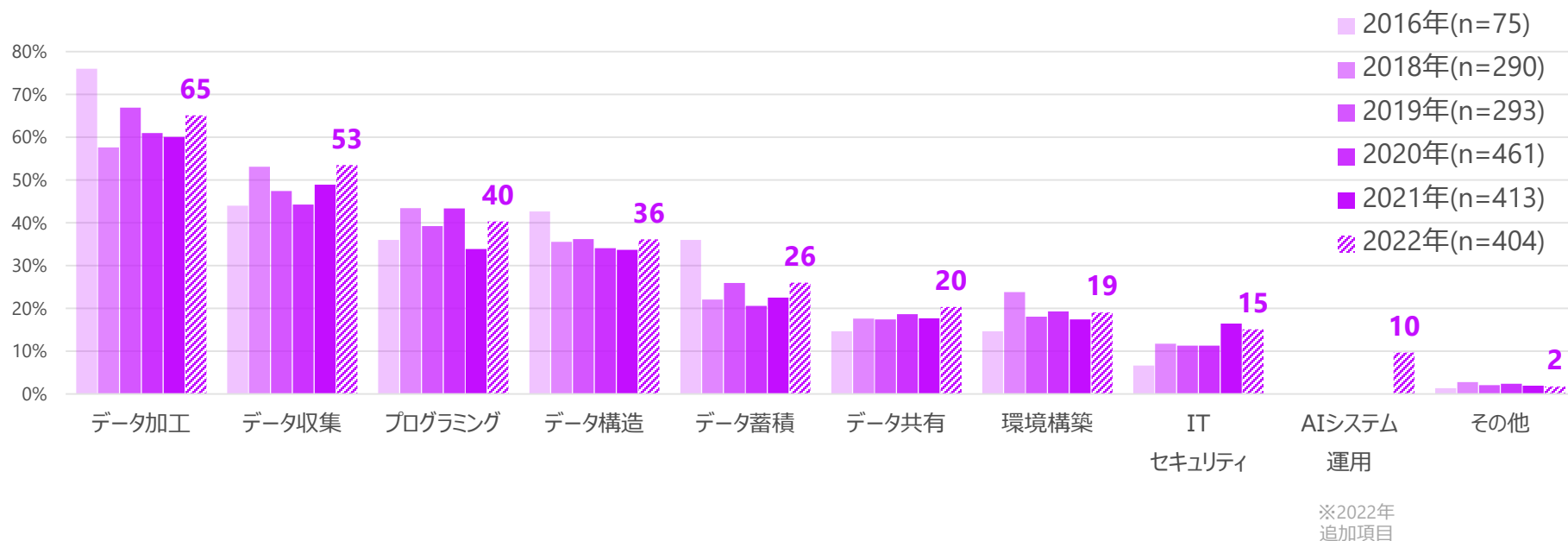


特に得意なスキルカテゴリ

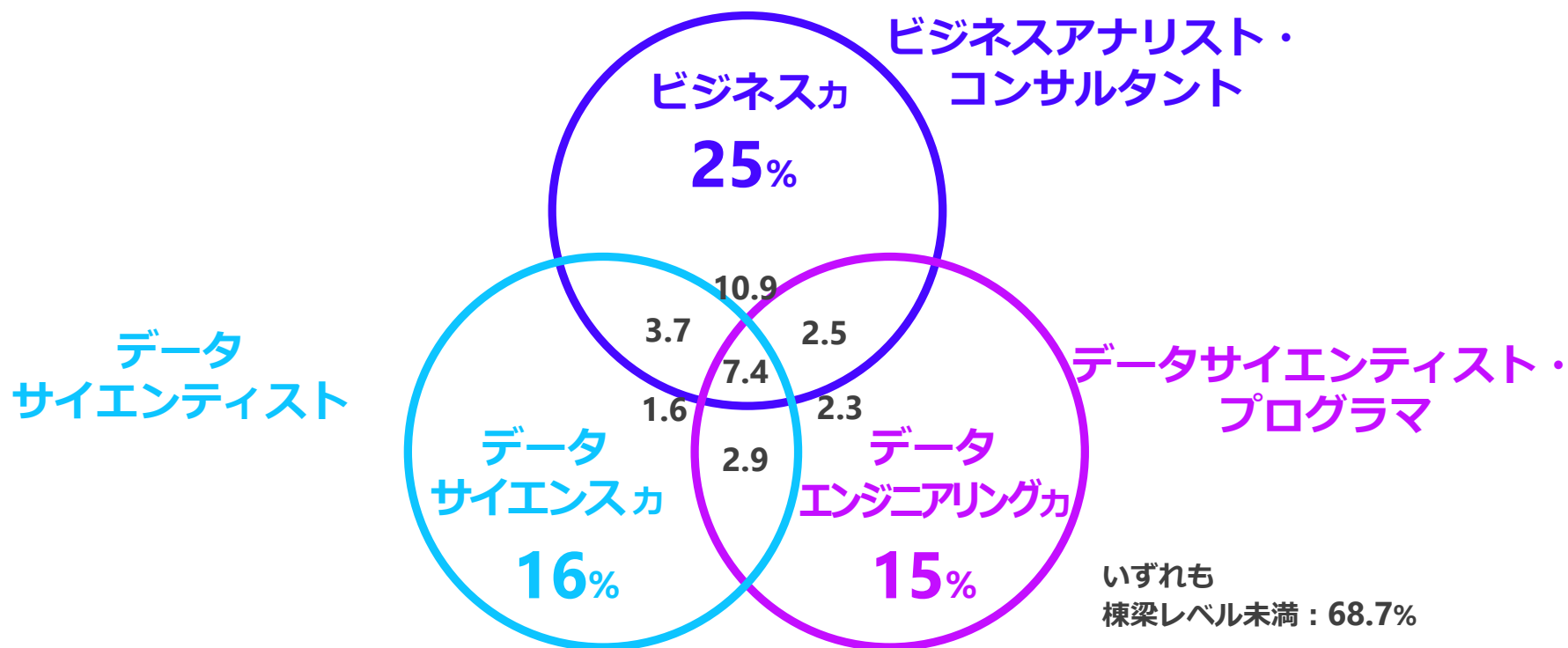
Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA／スキル見習い以上）



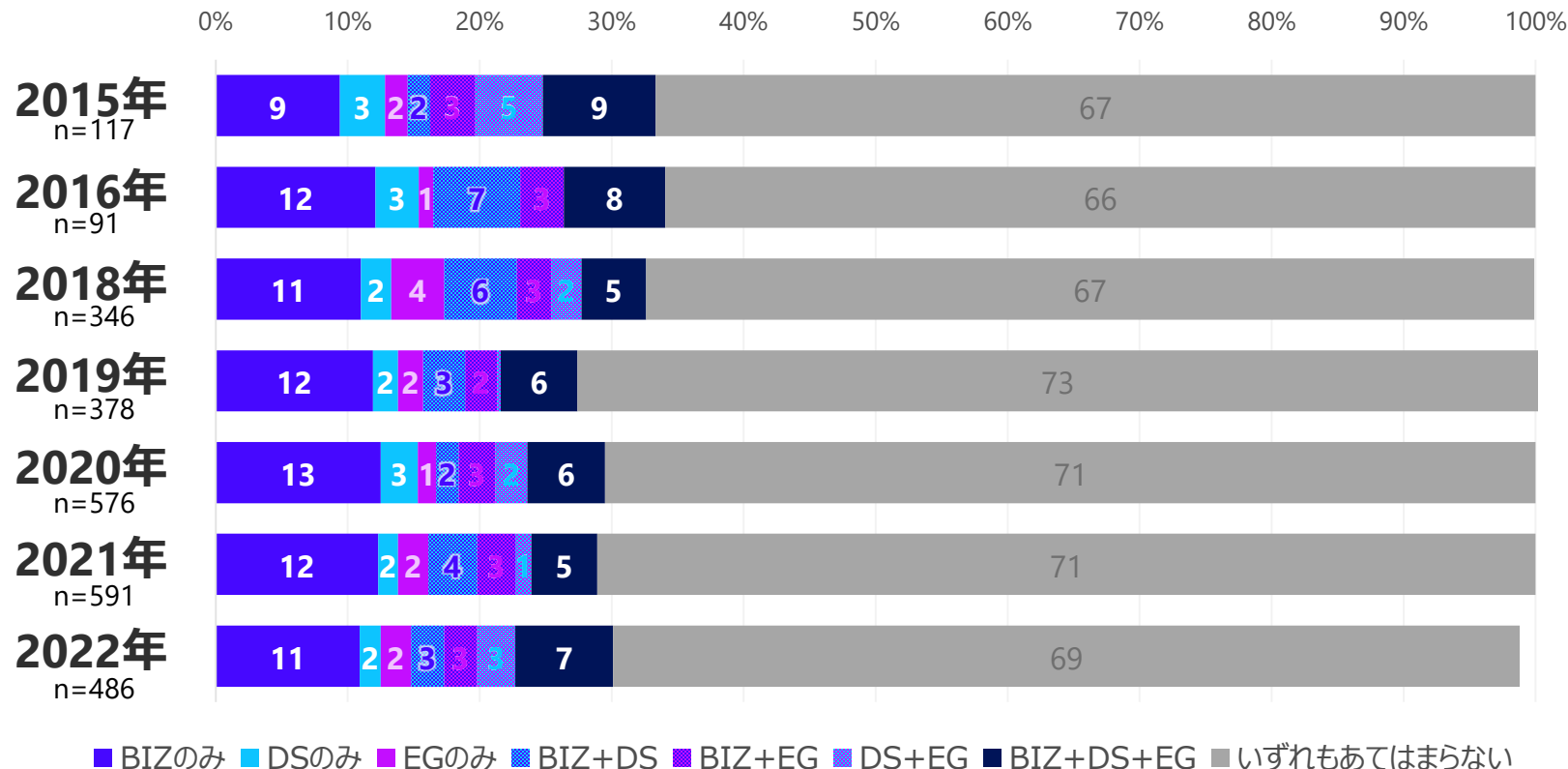
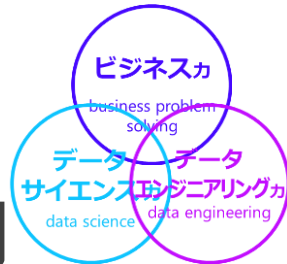
「データ加工」を得意とする割合が6割 「プログラミング」は前年から5ポイント増



3つのスキルセットを棟梁以上のレベルで 兼ね備えている人は 約7%



いずれかのスキルセットで 棟梁レベル以上に達している人は約3割

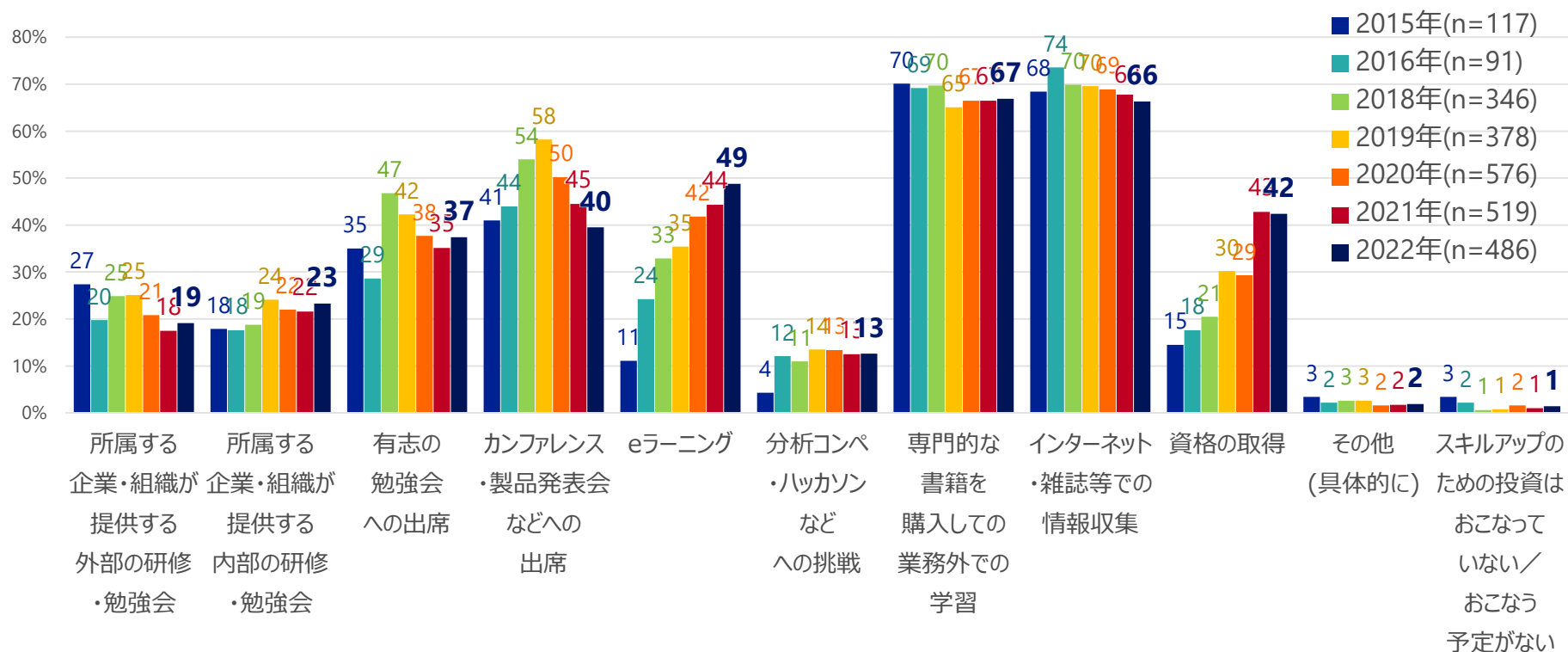


一般会員調査の結果 ：スキルアップ・人材育成について

スキルアップのために行っていること

Q あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
(データ分析関係者が回答/MA)

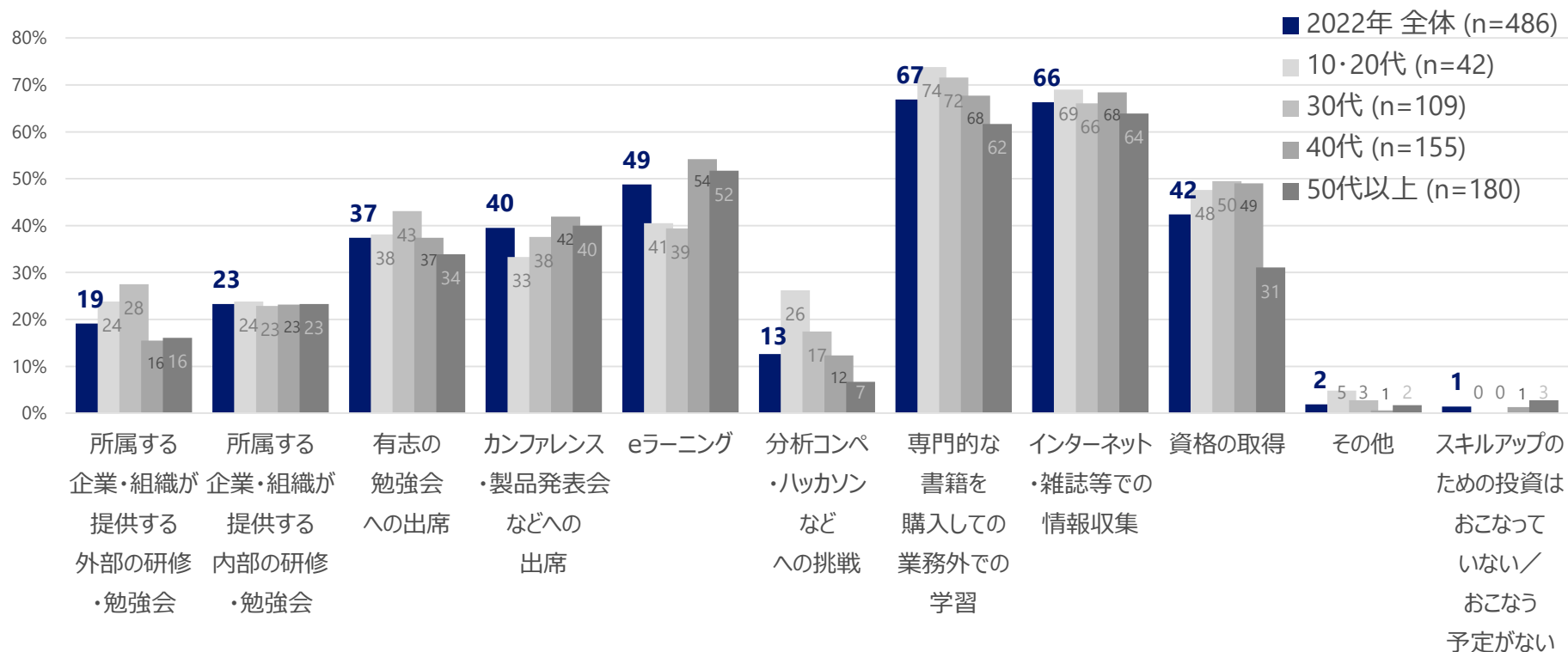
eラーニング・資格取得が継続的に伸長中



スキルアップのために行っていること（2022年・年代別）

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
（データ分析関与者が回答／MA）

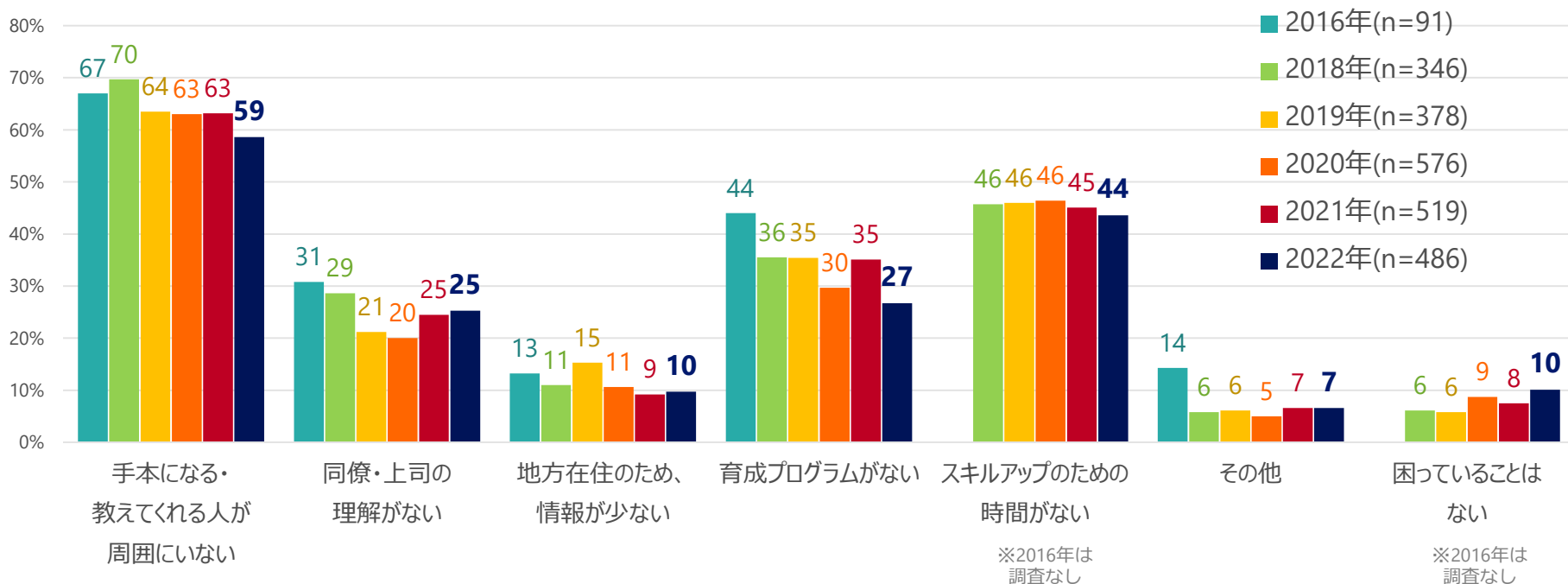
「書籍による業務外学習」「企業提供の外部勉強会」「分析コンペなどへの挑戦」が10～30代で高い



スキルアップ時の困りごと

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップを考える際に、困っていることがあれば教えてください
(データ分析関係者が回答/MA)

データ分析に関する 相談先やロールモデルの不足が課題



Q. あなたの所属する企業や組織では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか
(勤め人が回答/SA)

2022年新規追加

所属企業に専門組織があると回答した人は 4割

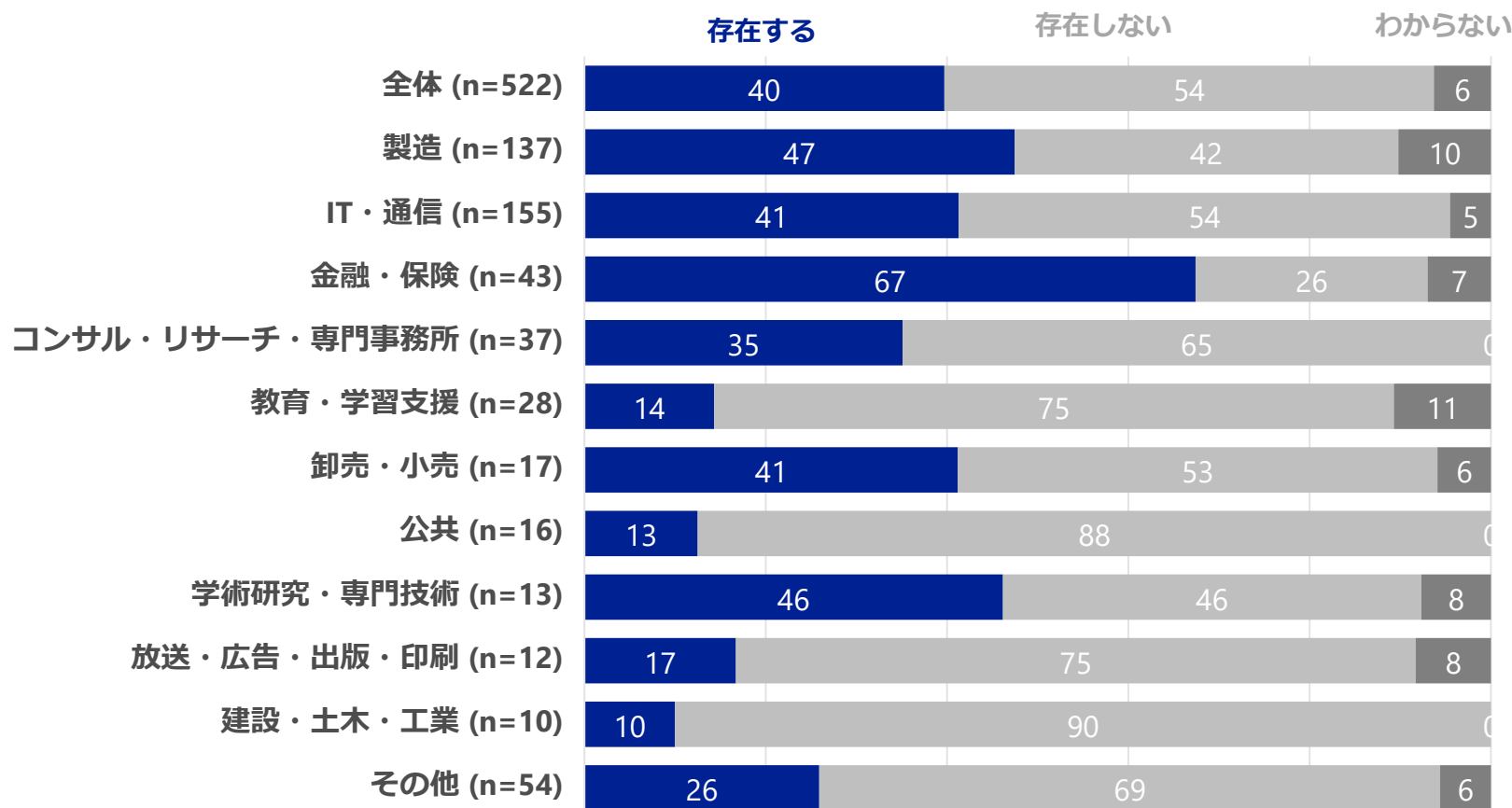


専門組織の有無（2022年・業種別）

Q. あなたの所属する企業や組織では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか
(勤め人が回答/SA)

2022年新規追加

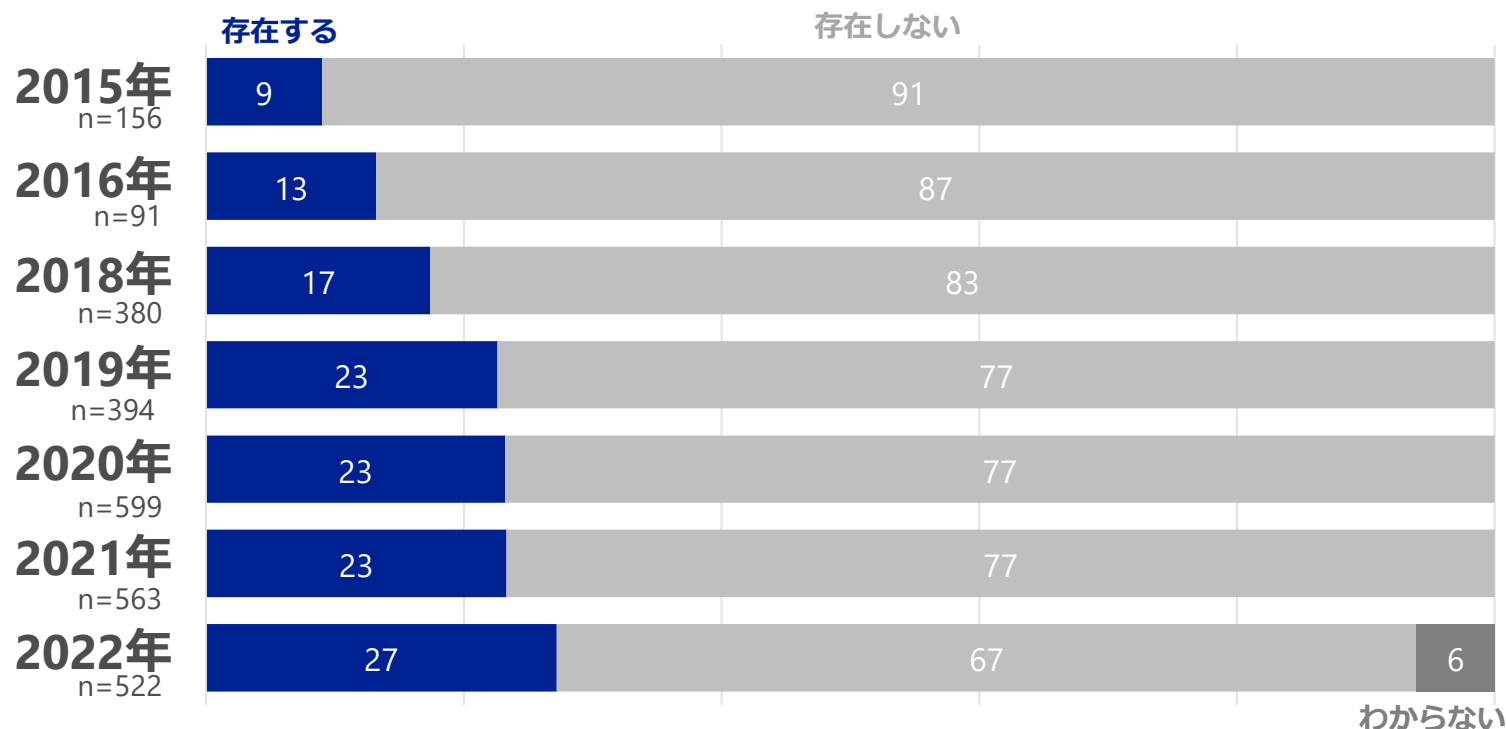
金融・保険、製造で専門組織がある割合が高い



育成プログラムの有無

Q. あなたの所属する企業や組織では、データ分析・解析に従事する専門人材について独自の育成プログラムなどがありますか（勤め人が回答/SA）

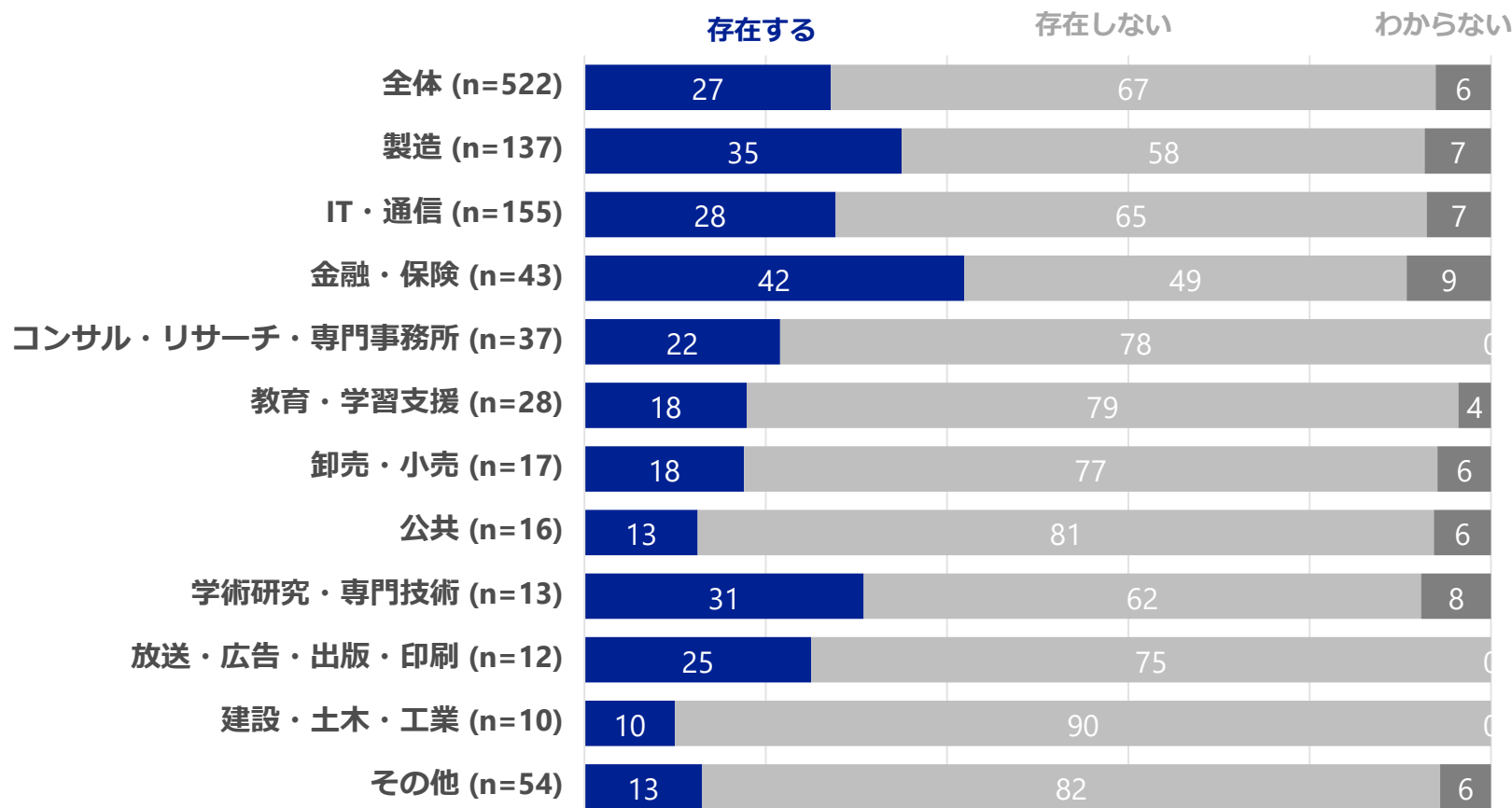
育成プログラムを備える企業・組織は 27%まで増加



育成プログラムの有無（2022年・業種別）

Q. あなたの所属する企業や組織では、データ分析・解析に従事する専門人材について独自の育成プログラムなどがありますか（勤め人が回答／SA）

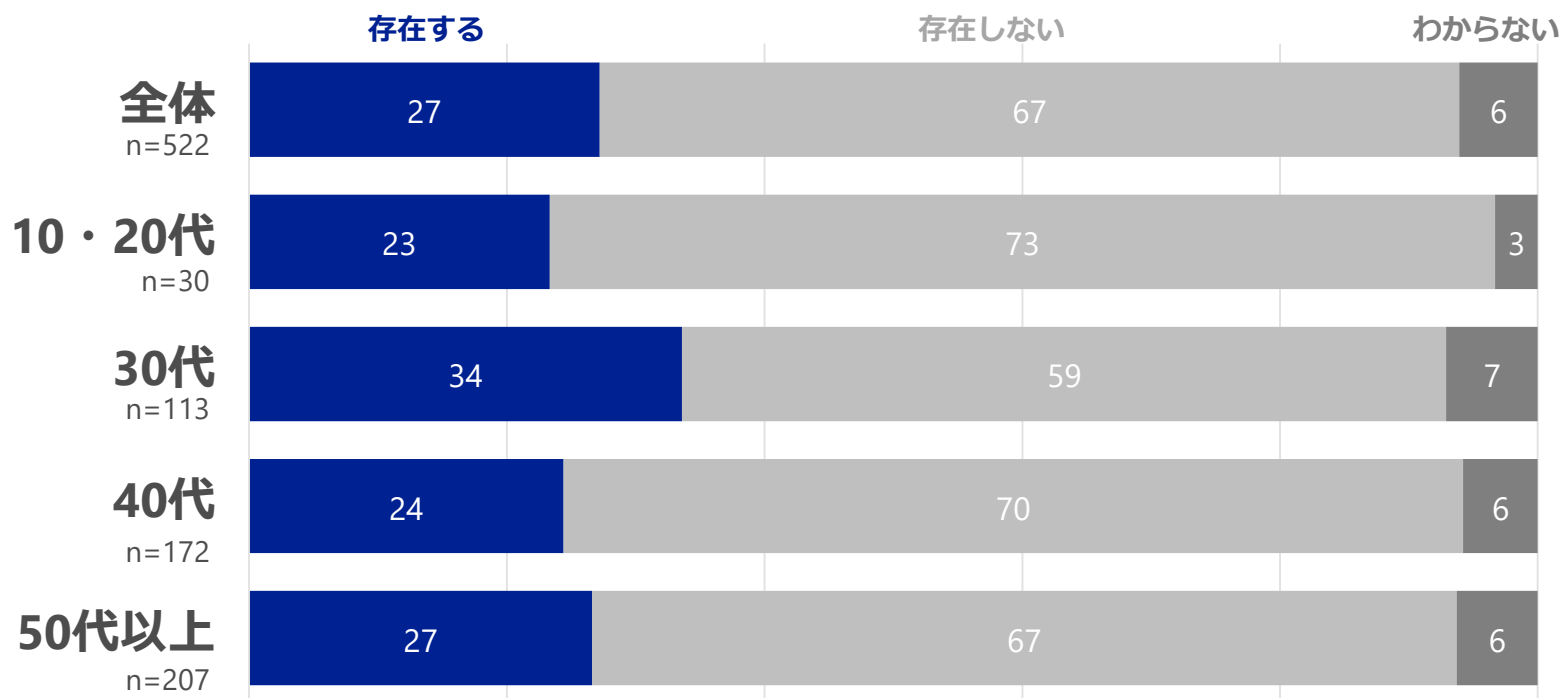
金融・保険、製造で育成プログラムがある割合が高い



育成プログラムの有無（2022年・年代別）

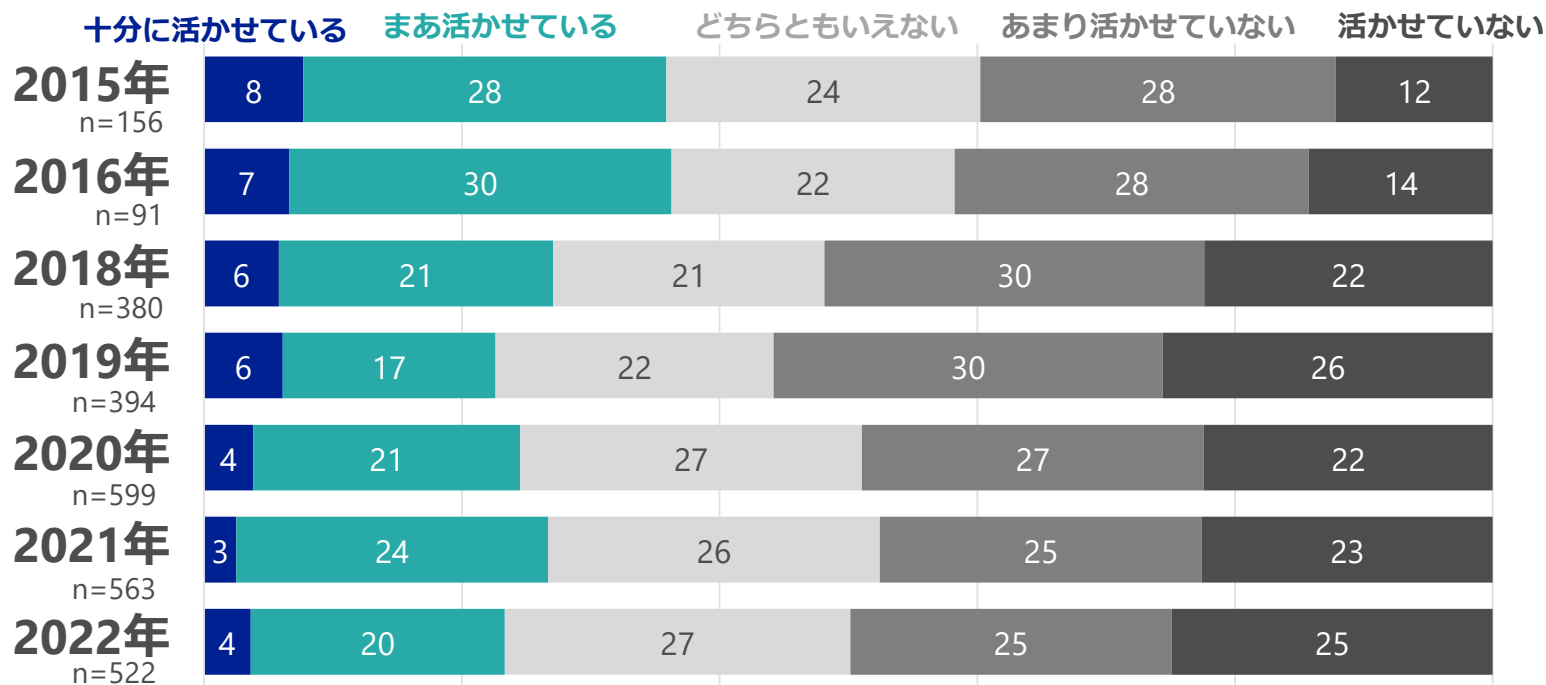
Q. あなたの所属する企業や組織では、データ分析・解析に従事する専門人材について独自の育成プログラムなどがありますか（勤め人が回答／SA）

30代の人で所属企業で34%に育成プログラムあり



Q. 所属する企業・組織内で、ご自分を含め、データ分析・解析に関わる人材のスキルが活かせていると感じていますか。
(勤め人が回答/SA)

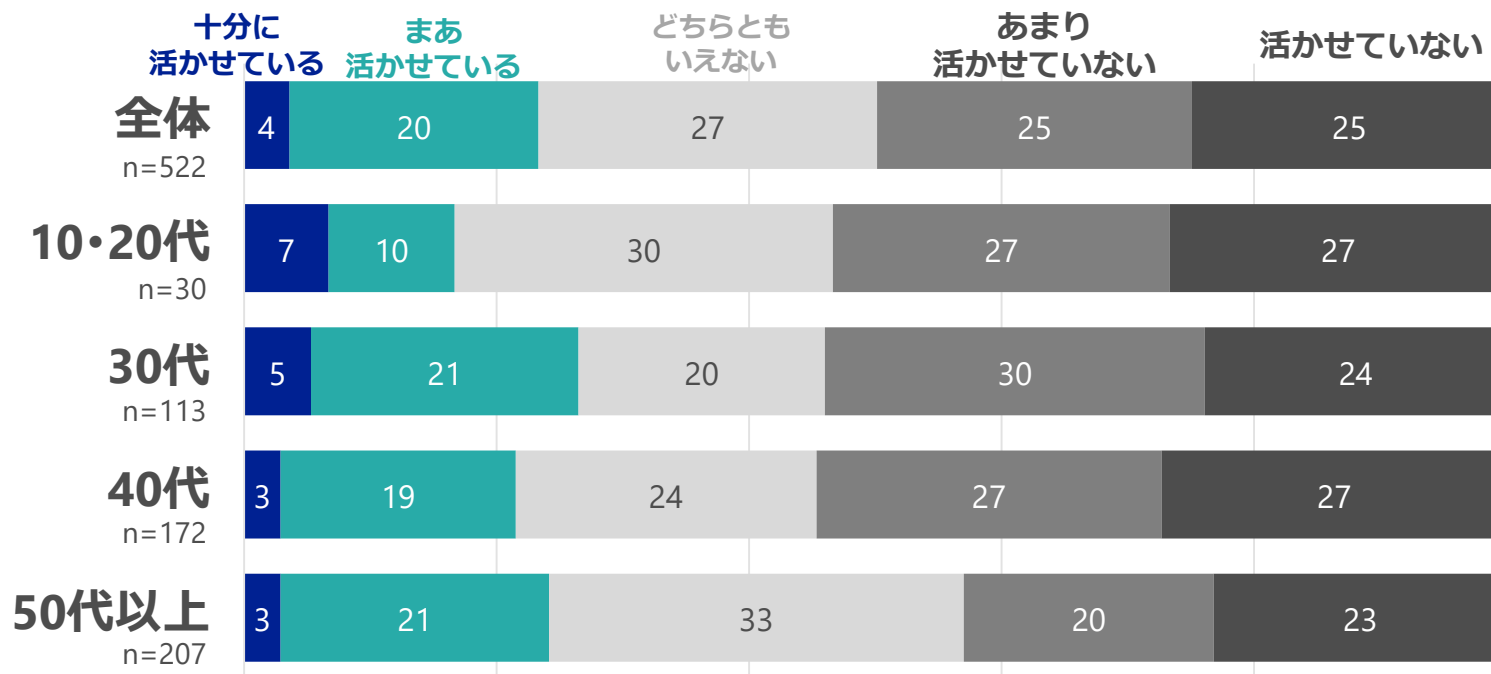
スキルが活かせているのは 24% 活かせていないと回答した割合が半数に



人材・スキル活用度（2022年・年代別）

Q. 所属する企業・組織内で、ご自分を含め、データ分析・解析に関わる人材のスキルが活かせていると感じていますか。
（勤め人が回答／SA）

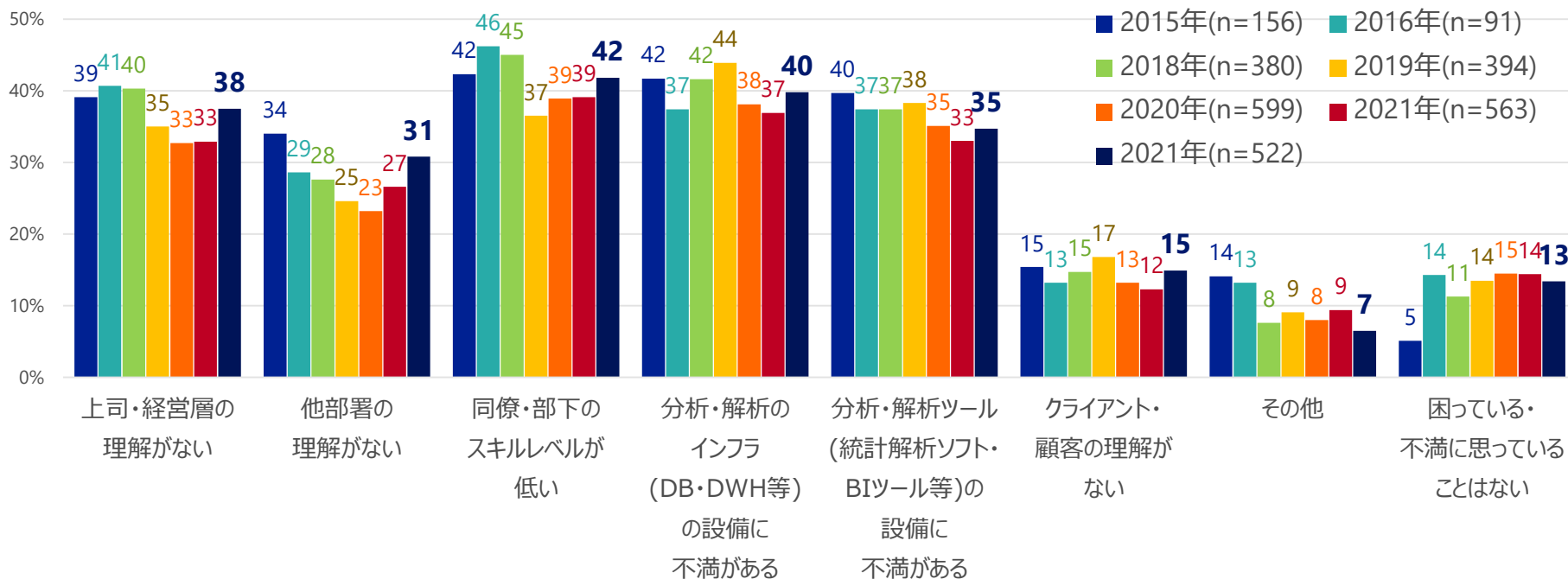
若年層でスキルを 「活かせていない」と感じられている



スキル活用における不満

Q. あなたが所属する企業・組織内で、データ分析・解析に関するスキルを活かすうえで、困っている・不満に思っていることがあれば教えてください。（勤め人が回答／MA）

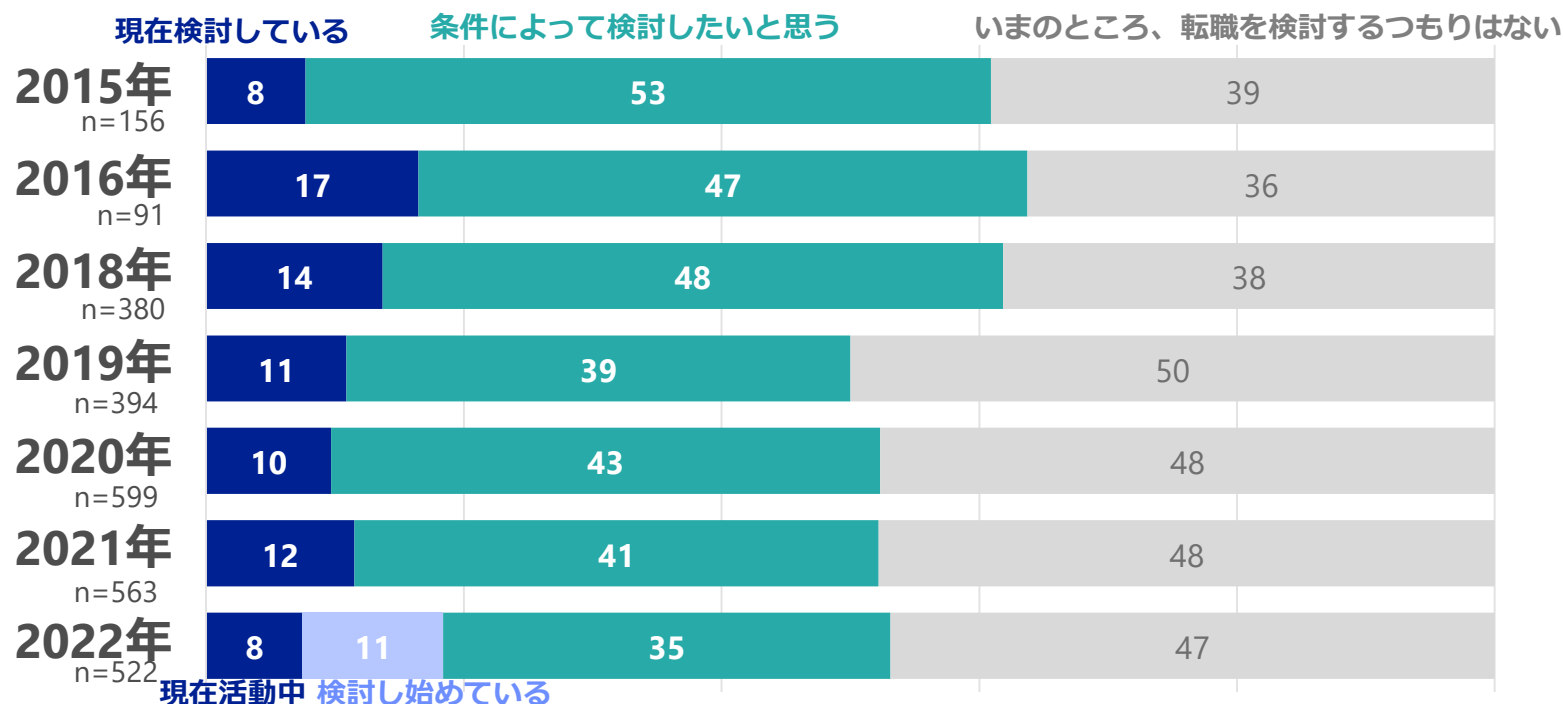
減少傾向にあった上司や他部署の理解不足が増加 スキルレベルへの不満も微増



Q. あなたは現在、もしくは今後、データ分析・解析に関する業務において、転職を検討していますか。
(勤め人が回答/SA)

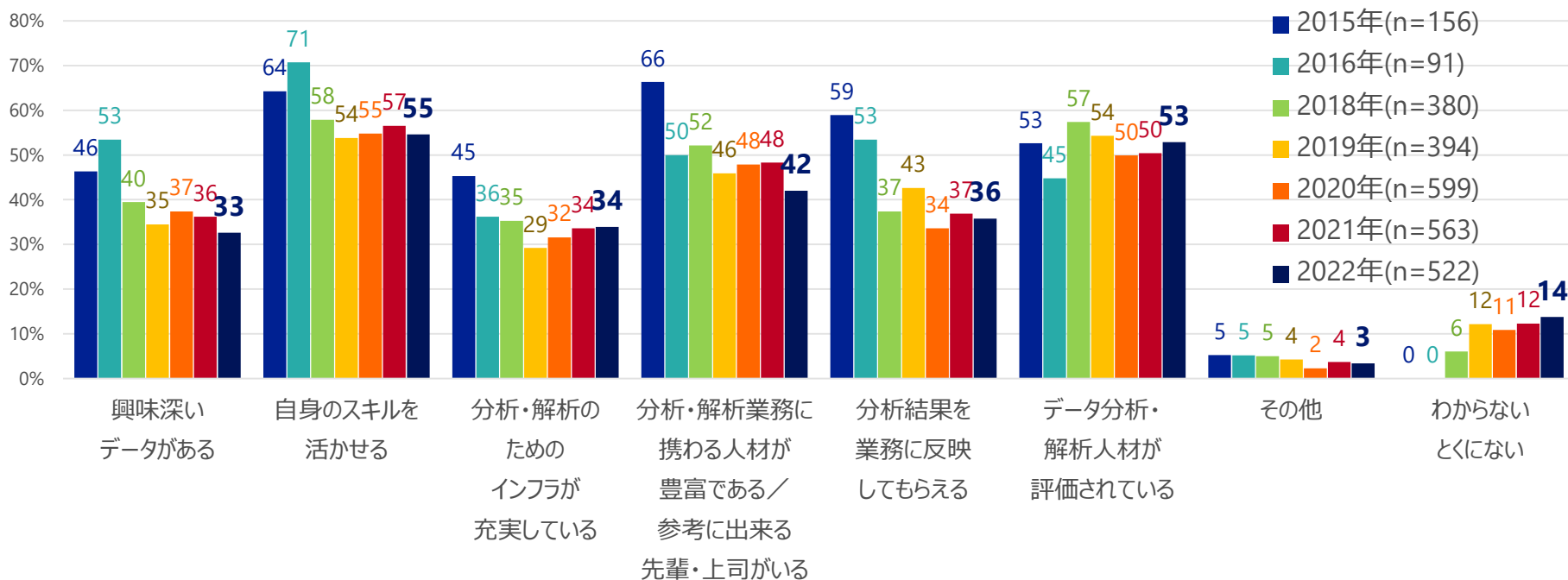
2022年より選択肢変更

転職活動中・検討している人は 18%



Q. 転職先を選ぶ際に、データ分析・解析業務環境に関わることで、重視したい点をお答えください。
(勤め人が回答 / MA)

スキルが活かせる・評価されることを重視

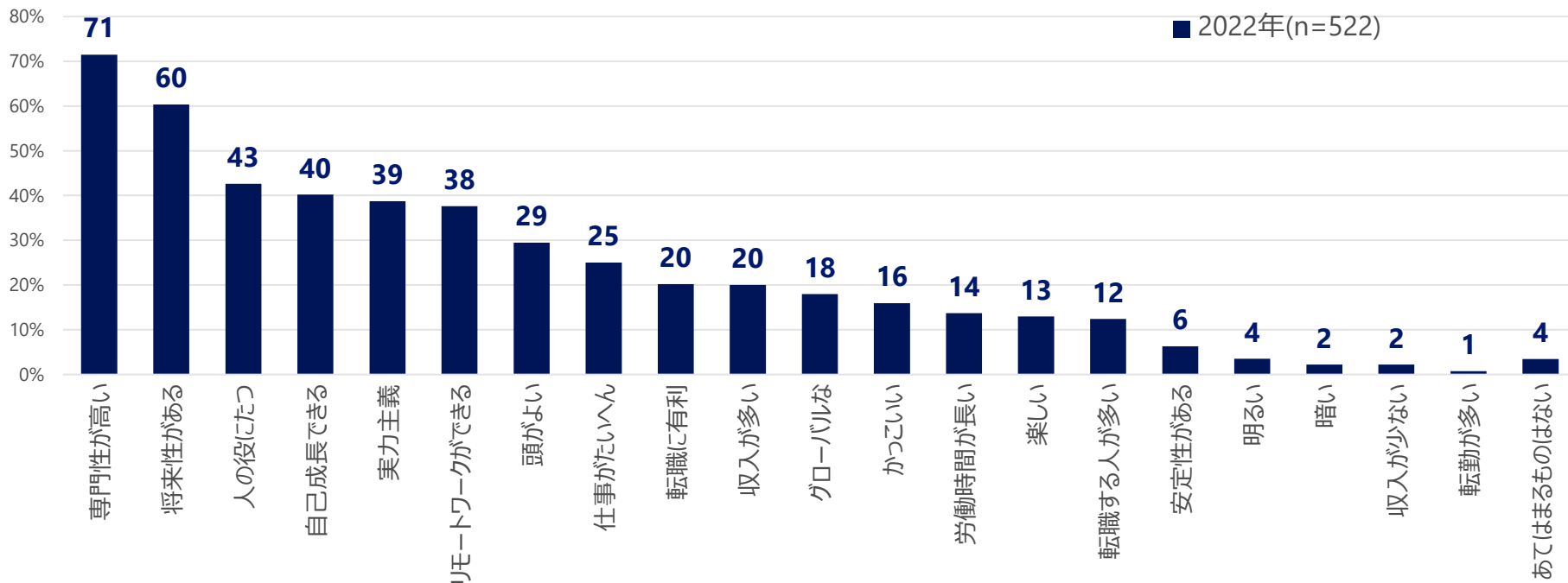


データサイエンティストのイメージ

Q. あなたは、「データサイエンティスト」という職種に、どのようなイメージを持っていますか。
(勤め人が回答／MA)

2022年新規追加

専門性が高く 将来性がある というイメージ

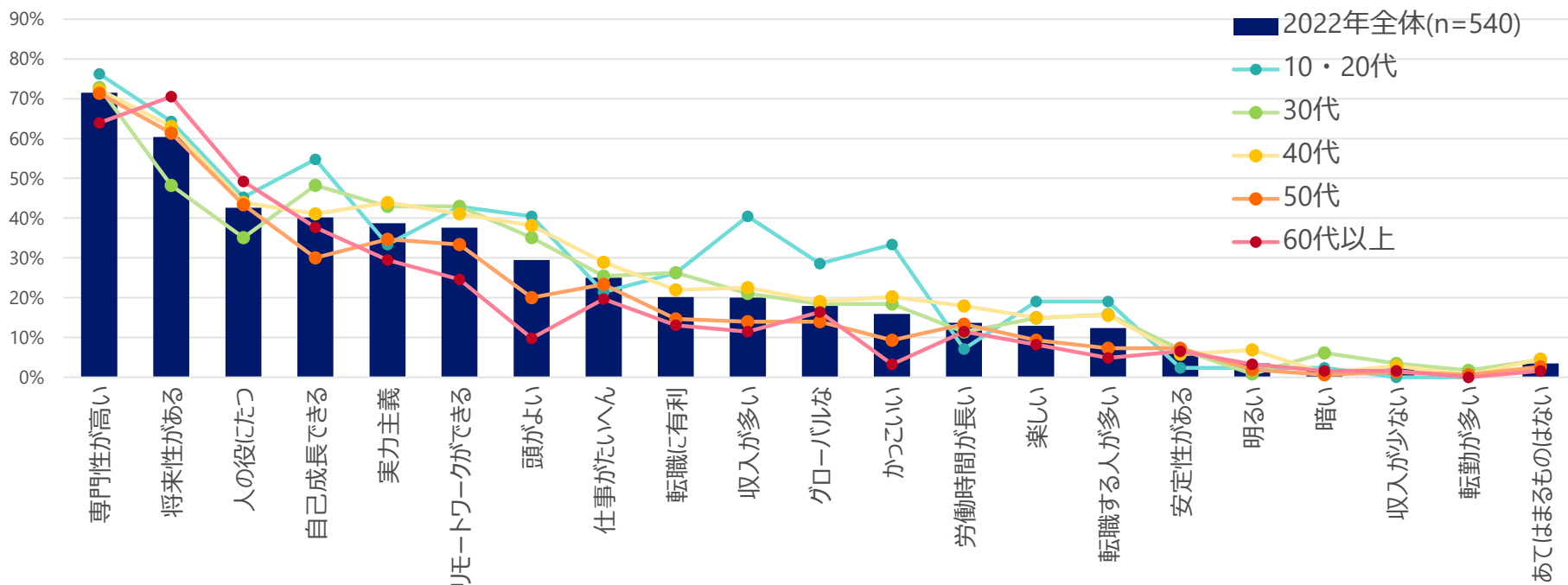


データサイエンティストのイメージ（2022年・年代別）

Q. あなたは、「データサイエンティスト」という職種に、どのようなイメージを持っていますか。
（勤め人が回答／MA）

2022年新規追加

専門性が高く 将来性がある というイメージ

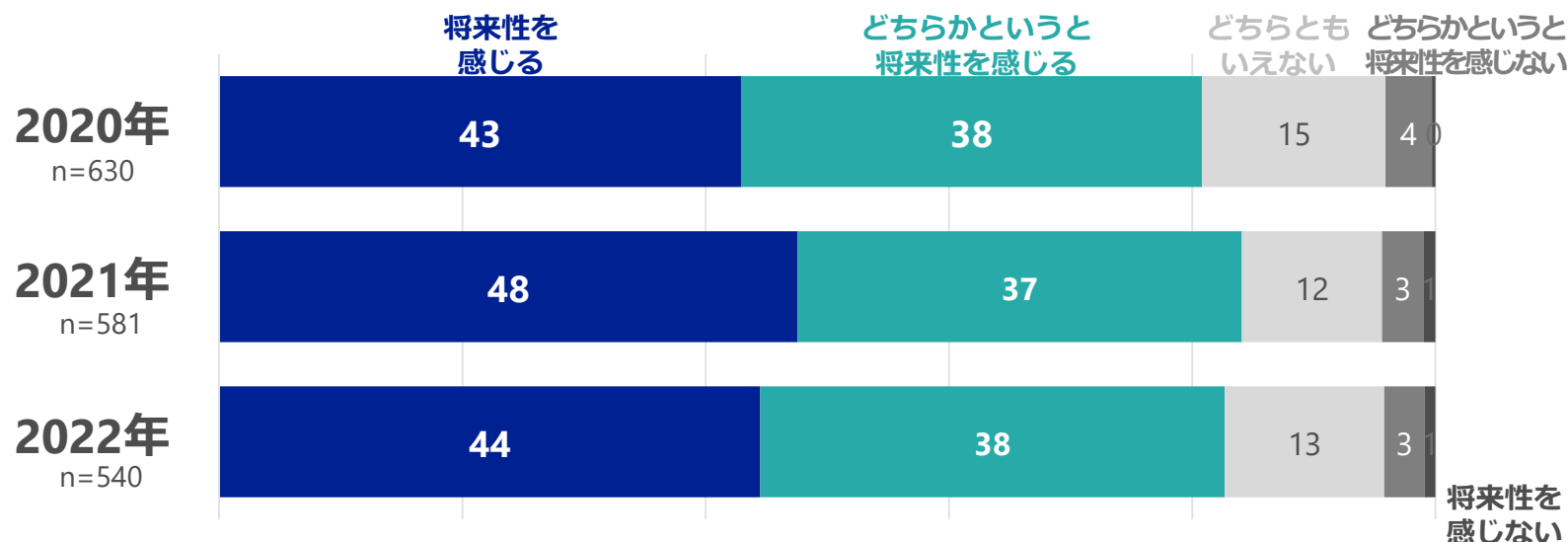


データサイエンティストの将来性

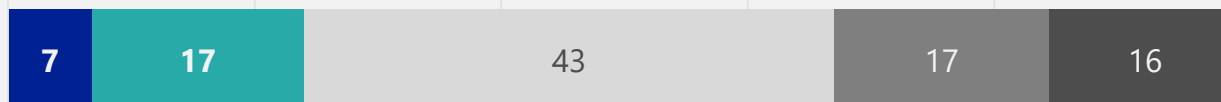
Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

将来性を感じている*のは 82%

*将来性を感じる + どちらかという将来性を感じる の計



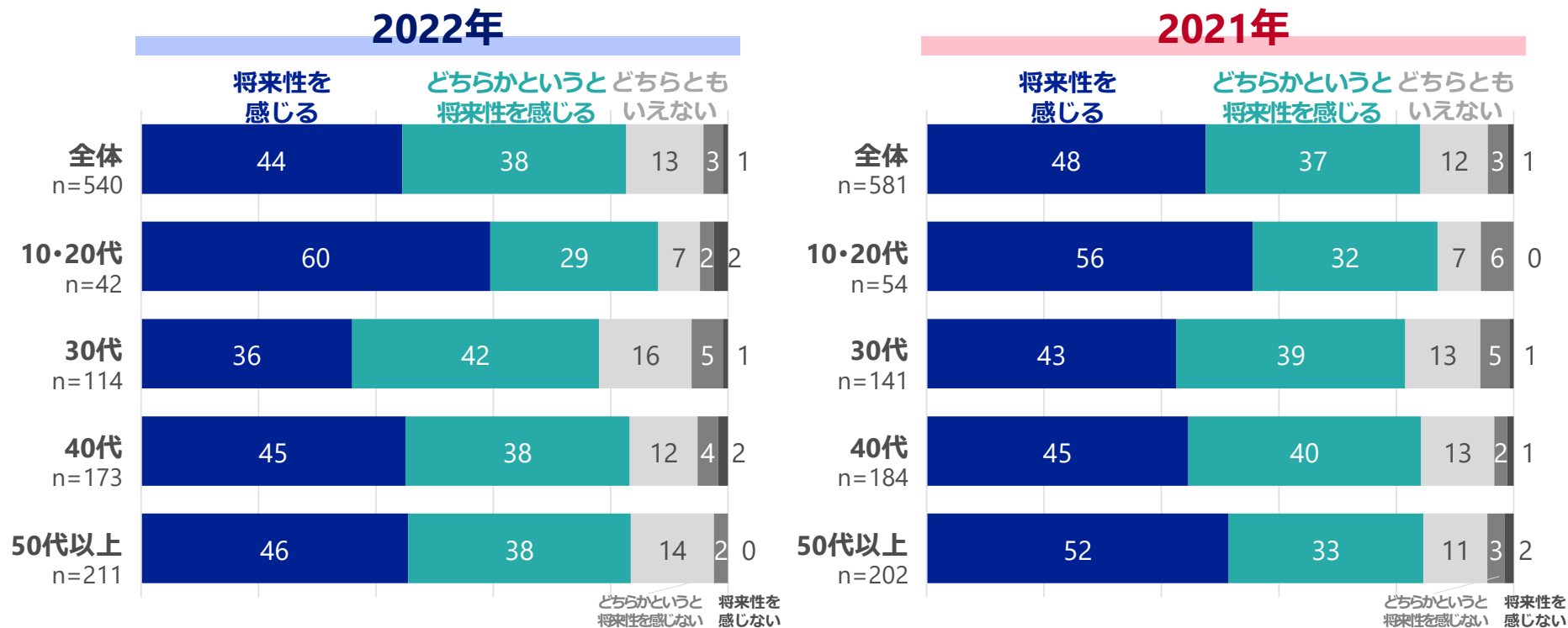
2022年 DS協会
一般ビジネスパーソン調査
n=2000



データサイエンティストの将来性（年代別）

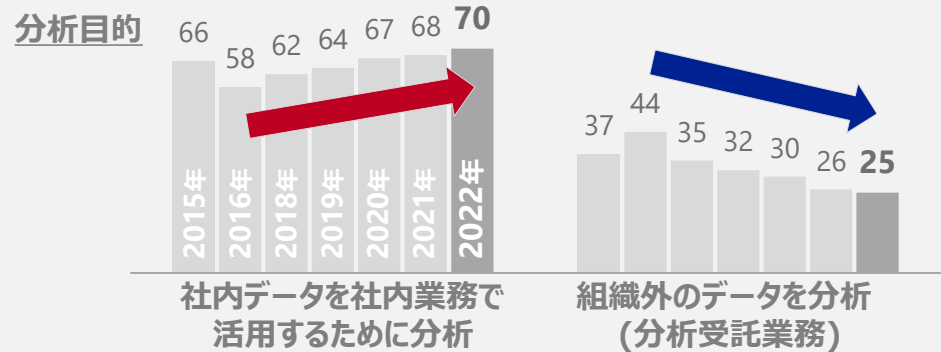
Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

10・20代では将来性を感じている割合が88%と高い
一方 30代では78%にとどまる

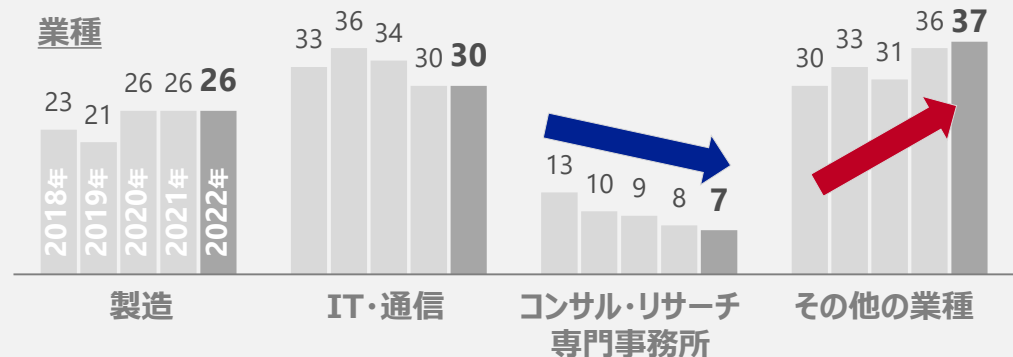


まとめ

社内でのデータ分析ニーズが高まってきている



所属している業種が多様化してきている



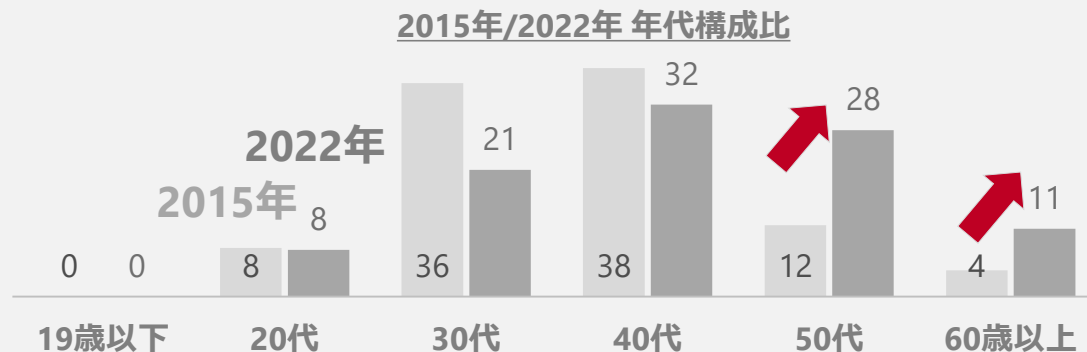
自社内でのデータ分析ニーズが高まっており
「データサイエンティスト」が多様な業種で求められ始めている

まとめ

専門性・将来性のある
職業というイメージを
持たれている

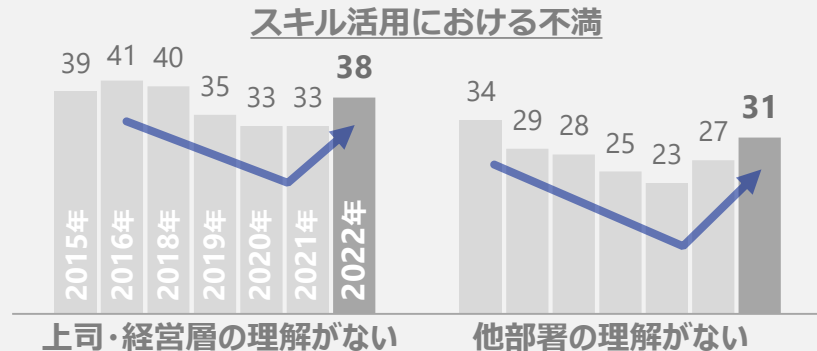


50代以上の比率が増加



専門性・将来性がある職業というイメージは持たれているものの
年代が上がってきている傾向がみられる

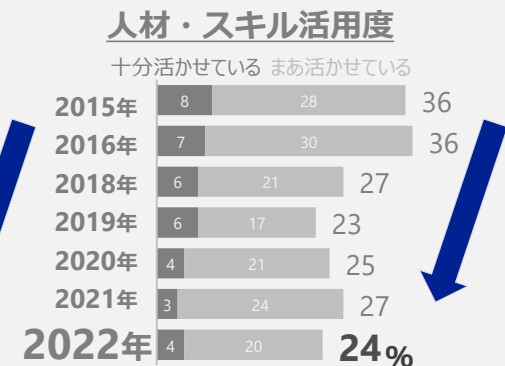
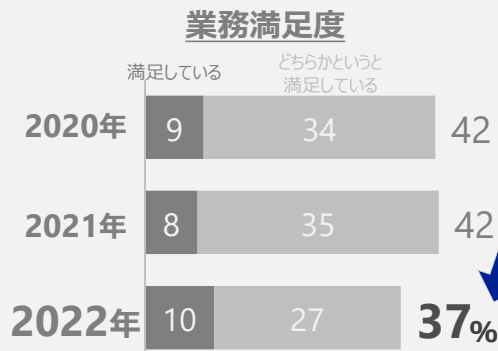
減少傾向にあった
上司や他部署の理解不足が増加



業務に満足している人は
全体の4割弱にとどまり

スキル活用度も低下傾向

特に10・20代で人材・スキル活用が
できていると回答している割合が低い



社内理解不足は解消に向かっていったがここに来て揺り戻し傾向
業務満足度やスキル活用度に停滞・低下傾向がみられる

- 自社内でのデータ分析ニーズが高まっており
「データサイエンティスト」が多様な業種で求められ始めている
- 専門性・将来性がある職業というイメージは持たれているものの
実際の会員属性比率は若年層比率が低く年代が上がってきている
- 社内理解不足は解消に向かっていたがここにきて揺り戻し傾向があり
業務満足度や人材・スキル活用度の停滞・低下がみられる
 - － 特に若年層で人材・スキル活用が低くなっておりギャップが発生している

- 多様な業種で活躍の場が広がっているものの、データサイエンティストの構成年代が上がってきていることから、将来性ある職業としてロールモデルを提示し、若年層へアプローチしていくことが継続的な課題だといえる。
- データ分析は内製化の動きが活発化。それに伴い、社内の人々の理解不足などの問題も再浮上しており、業務満足度低下などにつながっていると推察される。あらゆる場面において、データ分析業務に対する理解の推進は今後も重要であると考えられる。